

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況(Output・input)		成果分析[Output・input]	
				目標指標の内容	目標の基準値	目標達成時期	目標値	目標達成のための具体的方法	【現状】	【ギャップと対策】	①達成度・実績値	②取組・行動内容	③目標達成による成果
				(何を)	(目標設定時の状態・比較実績)	(いつまで)	(どの水準までどうする・達成後の状態)	(具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)	(目標の達成状況・ 現在の状態)	(目標達成のために 行った取組・行動)	(目標の達成による効果、 目標達成できなかった事由)
業務改善取組①	地域づくり支援課	情報共有と進捗管理	B	①各種問い合わせに対する迅速で正確な対応。 ②組織目標を案案に実行できるように進捗管理する。	①主担当・副担当以外はまだ初期対応できない状態。 ②スケジュール表を作成し課内で共有。	年度末	①担当不在時も課(係)全員が初期対応できる。 ②組織目標とした事業等が着実に達成できている。	・週・相により情報共有 ・文書・データの共有化 ・定期的な打合せと執行管理 ・各部局及び各種団体等との十分な連携	・週1回の課内打合せ時に各事業業務の情報や進捗状況を共有しているほか、問合せが集中すると想定されるものについては、係内で打合せし連携して対応している。 ・各事業目標達成に向け、他課・各地域局または各種団体と連携を図っている。	・引き続き課内の連携及び情報共有を図っている。問合せ等集中するものについてはミニ研修を実施したい。 ・制度及び事業内容の充実のため、他課・地域局、または各種団体との連携強化していく。	①達成度・実績値 (目標の達成状況・現在の状態)	②取組・行動内容 (目標達成のために行った取組・行動)	③目標達成による成果 (目標の達成による効果、目標達成できなかった事由)
重点取組①	地域づくり支援課	新たな地域づくりのしくみの検討	A	協議会と地区会議の役割、機能、組織の在り方の見直し	①地域づくり協議会 8地域 ②地区会議 36地区	年度末	住民が身近な地域課題に関心をもちながら、持続可能な地域づくり活動を実施するための組織体制、支援制度の構築	・地域づくり協議会は平成29年度をもって廃止し、平成30年度から地区会議の機能を充実させます。 ・補助金など各種支援制度の見直しを行います。 ・地域住民が主体となったワークショップやセミナーを開催します。 ・協議会、地区会議などの関係団体との協議、調整を行います。	・担当者会議及び部内会議において、地域づくりの組織体制や支援制度、元気事業の仕分け、分類について検討 ・市議会、地域づくり協議会、地区会議、地区交流センター、公民館等への説明と意見交換 ・元気事業の再編、予算の調整、条例等の整備 ・地域づくり導入ガイドブックの作成 ・先遣地視察やセミナー、ワークショップを開催し、職員及び市民の協働意識を醸成	・まちづくり調整会議及び政策会議で了承を得る ・市議会、地域づくり協議会、地区会議、地区交流センター、公民館等への説明と意見交換 ・元気事業の再編、予算の調整、条例等の整備 ・地域づくり導入ガイドブックの作成 ・先遣地視察やセミナー、ワークショップを開催し、職員及び市民の協働意識を醸成	①地域づくり協議会と意見交換しながら、元気事業の仕分け、分類を実施。 ②今後の地域づくりの目指す姿及び補助金制度について、まちづくり調整会議及び政策会議(1/15)にて了承を得る。 ③市議会、地域づくり協議会、地区会議、地区交流センター、公民館等へ説明し、意見交換を実施。 ④地域づくり協議会設置条例の廃止、補助金交付要綱の制定。	・担当課長、担当者会議(7回) ・地域づくり協議会及び地区会議(23回) ・部内会議(5回) ・まちづくり調整会議(2回) ・政策会議(3回) ・地域づくり協議会委員全体研修会(1回) ・職員向けセミナー(1回)	・新たな地域づくりの仕組みへ向け、多様な議論が交わられるとともに基本方針が策定され、H304月から新制度に移行することができた。 ・研修会やセミナーの開催、先進事例の研究により、地域づくりへの取り組みや動向を確認できた。
重点取組②	地域づくり支援課	ふるさと納税制度	A	ふるさと納税制度の拡充による横手市の知名度の向上、横手ファン拡大、地域産業の活性化	①H28実績件数(3/31現在見込み)＝6,519件 ②H28実績額(3/31現在見込み)＝104,289千円 ③特典提供事業者数(3/31 55事業者) ④横手市応援市民登録数(3/31現在 2,200人)	年度末	・特典は横手の魅力あふれるものに拡充します。 ・特典提供事業者研修会、セミナー等を開催します。 ・ポータルサイトを更新し、PRの強化に努めます。 ・横手の魅力営業課、ふるさと会と連携し、首都圏において「よこてファンクラブ(仮称)」を開催し、応援人口、交流人口の拡大に努めます。	・件数1,886件/寄附額32,080千円(H29.9月末) 前年比100.3% ・6/19.20 事業者向け説明会開催58事業者参加 ・返礼品提供登録事業者 65事業者 ・9/1～ふるさと納税ポータルサイト「さくら」増設、「わが街ふるさと納税」「ふるさとチョイス」「さくら」の3つのサイトから申込みが可能となる ・9/10「ふるさと納税祭りin二子玉川」出展	・寄附者との継続的なつながりを図るため、11/25に「よこてファンクラブ」を開設 ・11/1 返礼品取扱事業者募集説明会の開催 ・新聞、雑誌等への広告掲載 ・横手市応援市民へ返礼品カタログの送付による繰り返しの寄附の促進	①件数 38,000件(前年比5.8倍) ②寄附額6億円(前年比5倍) ③特典提供事業者数 65事業者 ④横手市応援市民登録数 4,100人 ※3月末	・9/1から申込受付サイト「さくら」の増設に伴い、返礼品の品目と提供数の増量 (特に、人気の高いりんごの提供数を年末にかけて大幅増加 H28 約1,500件⇒H29 約3,700件) ・年末にかけて、繰り返しの寄附を狙って、横手市応援市民約2,800人にカタログと粉末昆布を送付 ・寄附額が前年度より大幅な増額となり、次年度以降の各事業や施策に充当可能となった。 ・返礼品の提供を通して、商品の見せ方や商品説明の工夫を行うなど事業者側が、商品力の向上に努めるようになってきた。	・返礼品を通じて横手市の知名度向上、横手ファンの拡大、地域産業の活性化につなげた。 ・応援市民登録者が延べ約4千人を突破。返礼品やfan通信を通して横手市を知ったことで、横手市への応援の気持ちが芽生え、継続的な納税に繋がってきている。 ・寄附額が前年度より大幅な増額となり、次年度以降の各事業や施策に充当可能となった。 ・返礼品の提供を通して、商品の見せ方や商品説明の工夫を行うなど事業者側が、商品力の向上に努めるようになってきた。	
重点取組③	地域づくり支援課	男女共同参画の推進	A	横手市男女共同参画行動計画(第3次)の推進と意識啓発	・横手市男女共同参画行動計画(第2次)の実績 ・地方創生総合戦略	年度末	・市内各部署や秋田県南部男女共同参画センター等との連携によるイベントや研修会を開催します。 ・男女共同参画推進協議会を開催(2回)します。 ・市報、市HP、かまくらFM等による啓発を行います。 ・市内中小企業向けワークスタイル研修の実施	・男女共同参画推進協議会の開催 ・市報、市HP、かまくらFM等による啓発 ・企業・団体経営者・管理職向け「ワークライフ・バランス講演会の企画調整 ・市内企業の研修・講演会事業への参加を推進 ・県南部男女共同参画センターとの連携によるイベント開催	・企業・団体経営者・管理職向け「ワークライフ・バランス講演会」の開催(12/18) ・企業・団体従業員向けの「ワークスタイル研修」の開催(1月～3月) ・市内企業の研修・講演会事業への参加を推進 ・県南部男女共同参画センターとの連携によるイベント開催	①ワーク・ライフ・バランス講演会の開催(12/18) ②ワークスタイル研修の開催(3/8) ③県南地域連絡協議会参加(年2回) ④男女共同参画推進協議会開催(年2回) ⑤男女共同参画フェスティバル開催(2/24)	・ワーク・ライフ・バランス講演会、ワークスタイル研修の実施に向け、包括連携協議会(北都研院)、マネージメントリサーチ会社、ファザーリングジャパンとの協議、調整、指導事業等への参加動員及び周知 ・男女共同参画推進協議会の開催 ・県南部男女共同参画センターとの協議及び連携並びに各種啓発事業を実施	・企業幹部(市役所管理職含む)向けに「ワーク・ライフ・バランス講演会」を新たに開催すると共に、前年度から実施している「ワークスタイル研修」を実施し、イクボス、イクメン育成の一期となり、その相互のツラツラ効果により、働き方改革、女性活躍の推進に繋がったものと思われる。 ・男女共同参画の導入部分に係るフェスティバルは、アトラクションと講演(講和)を同時に行う新たな形式で行い集客を図り、男女共同参画の啓蒙を行ったが、前年並みの参加者数を得られなかった。	
重点取組④	地域づくり支援課	交通事故対策、防犯対策事業	B	交通事故対策、防犯対策事業の取り組み強化と見直し	①毎年度、交通安全実施計画を策定 ②平成28年度交通災害共済加入率12.24% ③よこて安全・安心メールにより市からの情報を随時メールで配信 ④防犯協会、交通指導隊、交通安全母の会を運営	年度末	①平成29年度交通安全実施計画の策定と着実な推進 ②昨年度を上回る交通災害共済加入率(加入目標13%) ③業務委託内容や委託料の見直し ④防犯協会の運営体制の見直し	・29年度交通安全実施計画を策定し、第10次交通安全計画の目標値を達成できるように、情報発信ツール等を活用して交通事故の減少に努めます。 ・年間を通じて様々な場面で、交通災害共済への加入促進を図ります。 よこて安全・安心メールは、内容の充実や経費の縮減を図ると共に、業務委託内容を見直します。 ・防犯協会の組織運営を円滑に行うため、内容が類似している地区会長会議と総会の一本化を検討します。	・H29.9.26 横手市交通安全対策会議実施、平成29年度横手市交通安全実施計画策定 ・9月末現在、交通事故死者数5名(昨年8名)、交通事故負傷者167名(昨年241名) ・9月末現在、交通災害共済加入率11.98% ・業務委託内容や委託料の見直しを現在検討中。また、メールの配信業務の分担についても検討中 ・H29.4.13 横手市防犯協会地区会長会議開催、H29.6.27 横手市防犯協会定期総会実施	・年末に向けて、12月1日号の市報に交通事故防止の広報、FMIによる呼びかけを実施 ・12月1日号の市報に交通災害共済加入率を掲載予定 ・よこて安全・安心メールの配信担当打ち合わせを12月までに実施予定 ・29年度は、地区会長会議の開催場所について検討実施 ・30年度に向けて、防犯協会地区会長会議及び定期総会の同日開催による一本化できるよう、協議していく	①交通安全対策会議開催(9/26) ②交通安全実施計画作成(9/26) ③交通災害共済加入率12.00%(H29年度実績) ④死亡事故ゼロ連続記録 3,000日(H30.1.28大森) 2,000日(H29.11.18山内) ⑤H29年横手市内事故状況 ・事故件数 188件(前年比 6件減) ・死者数 6名(前年比 同数) ・負傷者数 210名(前年比 30名減)	・交通安全対策会議の開催 ・市報やFM、指導隊によるパトロールなどを通じて交通安全対策の啓発事業を実施 ・交通災害共済の加入促進	・交通災害共済の加入促進により、事故に遭遇した市民の相談及び給付事務を実施した。(交通事故申請20件、不慮の事故59件) ・防犯に関する安全安心メールを6件配信した。 ・H28年と比較し、事故件数と負傷者数は減少したが、引き続き交通事故ゼロを目指し活動を展開していく。
重点取組⑤	地域づくり支援課	横手市交流センターY2ぶらざの適正な管理運営	B	Y2ぶらざ利用者へのサービス向上とトラブル発生時の対応の迅速化	過去の利用実績(H28年度利用者数310千人)	年度末	対前年比1%増	・にぎわい創出を維持するため、市民ニーズを把握し、利用者サービスの質を高め、ヒーターを増やします。(よこてイーストとの連携も行っています。) ・トラブル発生を未然に防ぐため、マニュアルの再確認、一部見直しを行うなど、体制の強化を図ります。	・施設及び機器に関するトラブルへの迅速な対応 ・マニュアルの再確認および状況に合わせた見直しを図り体制強化	・引き続き、にぎわい創出を維持するため、市民ニーズを把握し、利用者サービスの質を高める取り組みを行う ・トラブル発生を未然に防ぐため、さらなる体制の強化を図る	利用者数 282千人(H30年2月末) 対前年比 100.9%	・よこてイーストと連携したイベント等の開催 ・前年実施のアンケートの一部意見の取り込み ・不適切使用者への指導による正常利用化	・対前年比で、1%ほど使用者が増加している。引き続き、利用者増を図っていく。

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況(output・input)		成果分析[outcome]	
				目標指標の内容	目標の基準値	目標達成時期	目標値	目標達成のための具体的方法	【現 状】	【ギャップと対策】	①達成値・実績値	②取組・行動内容	③目標達成による成果
				(何を)	(目標設定時の状態・比較実績)	(いつまで(に))	(どの水準までどうする・達成後の状態)	(具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)	(目標の達成状況・ 現在の状態)	(目標達成のために 行った取組・行動)	(目標の達成による効果、 目標達成できなかった事由)
業務改善 取組①	生涯 学習 課	情報の共有と連携	B	生涯学習課・地域づくり支援課・スポーツ振興課・各地域課・各生涯学習センター・各公民館等、関係機関における各種事業等の情報の共有と連携 部内会議は開催されているものの、各課、関係機関の担当者における事業等の情報共有及び連携不足	年度末	・各地域の生涯学習・地域づくり関係者間で、共有フォルダ等を活用して他地域の事業情報を共有する ・職員間による横のつながりを強化し、協力体制の構築を図る	・共有フォルダを活用し、生涯学習推進計画の評価に係る事業実績報告書が提出されている。 ・各地域の生涯学習関連情報を収集、集約し、各関係者等へ情報を提供(毎月) ・担当者レベルでの会議を実施(年6回)	・情報提供の継続 ・担当者会議の継続 ・来年度の事業予定を把握し、協力体制の構築が可能か検討を行う	・各公民館や生涯学習センター、地区交流センターの事業について、関係委員(社会教育委員、評価委員)や担当者で共有できた ・共有フォルダの有効活用ができた	・公民館等で発行される広報紙を関係者へ配布した ・各公民館を訪問し、情報の共有を行った	・広報紙を配布したことで、関係委員では事業評価に、担当者では事業の企画、実施の参考となった ・担当者レベルの合同会議を定期的に開催することが出来なかった		
重点 取組①	生涯 学習 課	市民協働による地域づくり拠点(地区交流センター)の整備	A	地区交流センター化の推進 ・H29年度から14館で本格実施 ・交流センター化検討地域(増田、山内、大雄)館に対しての組織体制づくり支援	年度末	・本格実施した14館の運営について評価、検討を行い、課題等を次年度へ反映させる ・交流センターの情報提供 ・交流センター化検討地域(増田、山内、大雄)への情報提供 ・地域づくり支援課、各地域課や地区会議と連携し体制を構築する ・関係例規の整備	・自主運営組織等との定期的な協議の実施 ・HP等での情報提供 ・センター化検討地域局、地域づくり支援課、生涯学習課等による合同会議の実施 ・地区会議との連携により地域住民との関わりを深め理解を得る	・5月、9月に公民館、地区交流センター合同会議を開催した。 ・6月から8月にかけて、各地区交流センターと担当者の協議を行い、事業の進捗状況や課題等を話しあった。 ・横手地域、増田地域の合同地区会議に出席し、地区交流センターについての説明を行った。	・地区交流センター事業と新たな地域づくり事業は「地域運営組織」の育成という面で密接に関係することから、地域づくり支援課との連携を更に深める必要がある。 ・生涯学習課として、公民館を地区交流センター化する方針等を作成する必要がある。	・実施事業の評価、検証から改善へのPDCAサイクルが確立した ・4月より増田地域の増田公民館、増田公民館で地区交流センター事業に着手する予定 ・山内地域や大雄地域でも地区交流センター事業着手に向けた取り組みが進行している	・横手地域、増田地域、大雄地域での地区会議合同会議等に出席しながら、地区交流センター事業についての説明と理解を求めた ・各地区交流センターとの個別協議を行った ・新たな地域づくり事業との関連から、地域づくり支援課と生涯学習課の取組について整理を行った	・地区交流センター事業への理解が進んでおり、事業実施されていない地区においても事業着手に向けた機運が高まってきている	
重点 取組②	生涯 学習 課	横手市生涯学習推進計画第3次計画の取り組み	A	横手市生涯学習推進計画第3次計画の主な取り組みに基づいた具体的施策の実施を推進し、事業を浸透させる。 H29年度から第3次計画がスタート	年度末	・生涯学習担当者会議の定期的な開催による意見収集と検証作業の実施 ・生涯学習推進計画評価委員会の開催	・担当者会議における意見交換(年6回) ・評価委員によるローリングの実施 ・事業実績報告による検証 ・検証結果など情報の共有	・4月と6月に生涯学習推進計画評価委員会を開催し、評価のスケジュールや評価方法を検討し、PDCAサイクルに沿ってすべての事業を評価することとした。 ・9月までに実施した各事業の報告書の提出を依頼し、提出された報告書を各評価委員へ配布した。	・各事業を前期と後期に分けて評価することとし、10月と年度末に評価委員会を開催する。	・生涯学習推進計画評価委員会を4回開催し、上期22、下期50、通年36の計108事業の評価を行った	・各公民館や地区交流センターから、事業実施後には事業報告として実績報告、アンケートの集計結果(アンケート実施時)、事業写真の提出を依頼し、評価委員へ送付することで、実際の事業に参加できなかった場合でも書類による評価ができるようにした ・評価方法を5段階評価から、事業の継続や廃止・休止とする評価方法への変更を行った	・個別事業の評価に注力したため、生涯学習推進計画が目指す基本的方向との整合性の部分の評価が出来なかった	
重点 取組③	生涯 学習 課	学びバンク(人材バンク、サークルバンク)制度の周知及び活用促進	B	・利用件数の向上 ・学びバンク講座の開催 H28年度利用実績 2件	年度末	・制度利用件数 10件 ・学びバンク講座の開催 5回	・周知チラシを刷新し、公民館、生涯学習センター等へ送付し、新規登録者の呼びかけを行った。 ・上半期の利用実績としては、1件に留まったが、前年同期比でホームページ閲覧数は約2倍(66件→123件)になった。	・公民館だより等の広報紙へ記事を掲載し、制度周知と活用を呼びかける。 ・学びバンク登録者による講座開催を支援し、市民の自発的な学習活動に学びバンクの活用を促進する。	・制度利用件数 5件 ・学びバンク登録者による自主的な講座が開催されている。	・周知チラシを市内公共施設に配置した ・登録者及び登録団体一覧を公民館等に配布し、活用を呼びかけた	・制度利用件数は目標件数に達しなかったが、チラシ配布等により、市民及び地域公民館等において登録者や登録団体を講師とした講座の開催など、制度の活用が図られた		

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況(output・input)		成果分析(outcome)	
				目標指標の内容	目標の基準値	目標達成時期	目標値	目標達成のための具体的方法	【現状】	【ギャップと対策】	①達成値・実績値	②取組・行動内容	③目標達成による成果
				(何を)	(目標設定時の状態・比較実績)	(いつまで)	(どの水準までどうする・達成後の状態)	(具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)	(目標の達成状況・ 現在の状態)	(目標達成のために 行った取組・行動)	(目標の達成による効果、 目標達成できなかった事由)
業務改善取組①	スポーツ振興課	チーム力の向上	B	<ul style="list-style-type: none"> 各自のスキルアップ ひとりの100歩よりみんなの歩 チームワーク 	<ul style="list-style-type: none"> 研修に参加する 情報共有を図る 報連相の徹底 	年度末	<ul style="list-style-type: none"> ①予算決算の熟知(決済区分の変更に伴い、上位決裁者からの戻しをなくす) ②財務規則等の熟知(監査の指摘ゼロを目指す) ③チャレンジデーの参加率アップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・週連例の課内の打合せ ・早期に年間スケジュールを作成し、外部研修に参加するための予定を立てる ・積極的な内部研修への参加 ・チャレンジデーが浸透してきたが、初めに隔り再度周知方法を検討する ・要因分析は「なぜ」を5回繰り返す 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間スケジュールを作成し、業務対応する事は出来た。 ・チャレンジデーについては、天候等にも恵まれ、勝利につながった。今後安定した数字を出せるように、検証をしっかりと進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な研修へ積極的に参加を促す。 ・決済等の差し戻しもある、再度初心に戻り、疑問に思ったら決裁規定に目を通す。 	<ul style="list-style-type: none"> ①予算決算等基本的な業務の再確認やチェックを情報共有を図りながら実施した。 ②監査指導事項ゼロは達成できなかったものの、前年度同事項についての指摘はなかった。 ③参加率の向上は、緊急時の連絡・情報収集にもつながることを意識して、参加状況を漏れなく集約することに努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①決裁区分等を各自が確認するとともに、情報共有を図った。 ②財務規則の徹底しするとともに、情報共有を図り、昨年度監査指導事項について日頃から意識をしながら改善に努めた。 ③参加率の向上は、緊急時の連絡・情報収集にもつながることを意識して、参加状況を漏れなく集約することに努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 通常業務を常に見直ししながら進めることの重要性について共通認識を持つことにより、目標や最終到達点への意識を共有しながら業務を遂行することが多くできた。
重点取組①	スポーツ振興課	5S+1S(省力化)	B	<ul style="list-style-type: none"> 5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)の徹底+省力化 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様化するイベント等に対応する ・イベントに要する費用の削減 	年度末	<ul style="list-style-type: none"> ①次回のためのデータ整理 ②ファイリング、オペレーションマニュアルの整備 ③前年度比較でコスト削減 ・イベントスリム化に向けた提言 	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすいフォルダー名 ・見やすいマニュアル作成 ・ヘッダフッタを活用し、データを探しやすいとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントのファイリングを次回のマニュアルに使用出来るように作成している。 ・データ保存について、フォルダーの階層が深く、あまり使用しないデータを探すのに時間を要する事が多い。どうすれば検索しやすくなるのか考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> フォルダーの階層を深くないように考える。どうすればデータが見つけやすくなるか考えなくてはならない。データを再利用すれば、時間の削減につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①多様化するイベント等への対応はもとより、毎年実施するイベントに対しても、データ整理及び対応マニュアルの作成になかなかつなげていない。 ②ファイリング、オペレーションマニュアルの整備になかなかつなげていない。 ③イベントスリム化に向けて意識づけは出来つつあるが、提言まで至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ①担当者が代わってもスムーズに実施できるためのマニュアル作成を試みていない。 ②イベント終了後に関連資料のファイリングを実施。 ③コスト意識を持ちイベント等を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 複数のイベントを同時に準備・実施する必要があるため、次回のための整理まで手がまわらないことが多かった。反省点や改善点の整理ができるよう、準備の前段階から取り組むことが必要。
重点取組②	スポーツ振興課	地域が活性化化するホストタウン	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ホストタウン事業の実施 ・MOUの締結 ・インドネシアチームの合宿の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホストタウンに登録はされたが、登録されたメニューの完全実施は出来ていない 	年度末	<ul style="list-style-type: none"> ①インドネシア出身の方と連携 ②県内企業チームと連携 ③市内競技団体との連携 ④部局横断の連携 ・ホストタウンメニューの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な物品等の早期購入 ・年間スケジュールの作成 ・進捗状況の視える化 ・定期的な連絡調整会議の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ交流に係る基本合意書の締結後、インドネシア共和国バドミントン協会事務局の方々から横手に来ていただいたことが出来た。 ・来ていただいた時に、県内インドネシア共和国出身の方々との交流を図ることが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下期もインドネシア共和国との交流が考えられる。先を見越した計画と準備が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ交流に係る基本合意書に基づき、事前合宿誘致に取り組んだが、実現できなかった。 ・青少年交流の実施により、インドネシアとの良好な関係を継続できる礎とし、次年度以降の交流に結び付けることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バドミントン競技用具の購入 ・インドネシア出身者との連携 ・インドネシア文化交流の一環としての料理教室の実施 ・青少年交流の実施 ・オリビアン講演会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ交流に係る基本合意書に基づき、事前合宿誘致に取り組んだが、実現できなかった。 ・青少年交流の実施により、インドネシアとの良好な関係を継続できる礎とし、次年度以降の交流に結び付けることができた。
重点取組③	スポーツ振興課	市民が主役のイベント	A	<ul style="list-style-type: none"> ・現場重視 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様化するイベントにより前上で考える事が多く、現場と相違が発生する場合があります。誰のためのイベントなのか、なぜ実施するのかを考える 	年度末	<ul style="list-style-type: none"> ①参加者の意見を聞く一聴く一訊く ②現場に足を運んで見る一観る一診る ・改善を提案 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く・目的もなく漠然と聞く一聴く一訊く ・意図をもって、具体的な答えを引き出す一訊く・さらに詳しく突っ込んで訊く ・見る・目に映っているだけ一観る一診る ・見る・目に映っているだけ一観る一診る ・改善すべき問題点が見えてくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・準備漏れなどなくイベントを実施する事は出来た。しかし、終了後、参加者の意見を聞くための事務などに手が回らなかった。PDCAに努めるように心がけたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 後半もいろいろな大会が多い。上期に出来なかった事を少しでも下期で実施し次へのイベントにつなげていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予定イベントの実施 ・マラソン、ハピネット市民交流会等においては、市民が主役となるイベントが実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> おもてなし力向上を目指し、誰のためのイベントなのかを念頭に準備段階から取り組むことができた。 公式ホームページで参加者からの生の声をいただくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の意見を聞くためのアンケート調査の実施など、工夫すべき課題が残った。 公式ホームページで参加者からの生の声をいただくことができた。
重点取組④	スポーツ振興課	公共施設の整備	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャストインタイム ・リードタイム(事業に要する時間は計画から反省まで) 	<ul style="list-style-type: none"> ・FM計画において長寿施設の適正な維持 ・管理のアウトソーシング 	年度末	<ul style="list-style-type: none"> ①必要なものを必要なとき必要な量の購入、経費の削減化 ②アウトソーシングのための法令等の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ムダな在庫を持たない ・ムダムリムラをなくす ・計画的な整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設を整理整頓し、在庫はあらかじめに置かず在庫管理に努めた。小さな不具合を見逃すと大きな費用になってしまう場合がある。普段からの点検に心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建設から年月が経過しているため、小さな不具合を見逃すと大きな費用になってしまう場合がある。普段からの点検に心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設から定期的あるいは随時問題点や改善点をまとめた報告書を提出してもらうなど、施設維持管理及び運営に努めることができた。 指定管理制度導入の準備ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・改善点等報告書の作成、提出、改善 ・関連規程の整備 ・在庫適正管理による経費削減 	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理制度の導入に向けて、例規の整備、指定管理者の選定、指定など、来年度の実施に向けての準備が整ったことにより、制度導入後の利用者の利便性の向上等が期待できる。 指定管理事前修繕等の実施により、スムーズな管理移行が実現できる。

■平成29年度

まちづくり推進部 歴史まちづくり課

組織目標管理シート

No.	課室所名	目標項目	難易度(ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況(output・input)		成果分析[outcome]	
				目標指標の内容	目標の基準値	目標達成時期	目標値	目標達成のための具体的方法	【現状】	【ギャップと対策】	①達成値・実績値	②取組・行動内容	③目標達成による成果
				(何を)	(目標設定時の状態・比較実績)	(いつまで)	(どの水準までとする・達成後の状態)	(具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	上期(4月～9月)の取組実績(具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と取組の予定(具体的活動・行動)	(目標の達成状況・現在の状態)	(目標達成のために行った取組・行動)	(目標の達成による効果、目標達成できなかった事由)
業務改善取組①	歴史まちづくり課	・増田重伝建地区における一体感ある事業推進	A	・地区内の細やかな事業推進体制	・定期的な事業調整会議 ・地域の団体(住民)との一体的な事業推進	・年度末	・関係課との定期的な事業調整会議の開催する。 ・関連団体や住民などへの説明をおこない、地域内の情報等の共有を図る。	・街なみ環境整備事業等に関する工事内容、工程等について関連課との調整会議を実施。 ・重伝建地区における事業計画担当課において合同の住民説明会を開催し、実施内容、施工時期、計画の情報共有を図った。	・工程等、地区住民・来街者への影響を考慮した調整会議を引き続き実施。	・関係課及び設計コンサル等も含めた定期的な調整会議を月1回実施し、情報の共有を図った。 ・地区への説明会においては、関係課の説明を合わせて実施し、全体の工事内容説明が可能となった。	・全体の調整会議のほか、次年度等に想定される課題について、関係課・施工者との調整を図った。 ・重伝建地区の街なみ環境整備にかかるとも関係課と情報の共有に努めた。	・地区住民、来街者への対応のほか、朝市関係者との営業スペースなどの課題については、早い段階より調整が可能となった。 ・不測の豪雪により、工事に支障をきたし、説明した工程等に大きなズレが生じ、休工してしまった。	
重点取組①	歴史まちづくり課	・増田重伝建地区の保存整備事業の推進	A	・重伝建地区内の建造物及び工作物の修理修景 ・重伝建地区防災計画の周知	・17件(修理11、修景6)実施済み、本年度4件予定 ・重伝建地区防災計画策定済み	・年度末	・国庫補助事業の説明資料を作成、説明会を実施し、まちなみ保存への意識を高める。 ・防災計画の説明会を実施し、それぞれの立場での役割を理解し、防災への取組を進める。	・事業の流れを資料に整理し、計画的に説明会を実施する。 ・防災計画の概要版を作成し、計画的に説明会を実施し、防災意識の向上を図る。	・防災計画の概要版作成に着手。 ・地区団体との調整により防災訓練を計画。	・国庫補助事業の説明資料を作成し、説明会を実施する。 ・防災計画の概要版を完成し、説明会を実施。 ・地区団体による防災訓練を11月に実施予定。	・防災計画の概要版(案)により、保存地区内の住民に向け、計6回説明会を実施し、地区内に資料を配布。 ・先進地区の取組について、地区内で研修会を実施した。 ・消防署との協力をいただき、映像や実施での操作を研修会を実施した。	・防災計画について、時間・曜日を分けて説明会を開催し、参加機会の拡大を図った。 ・先進地区の取組について、地区内で研修会を実施した。 ・消防署による研修を受け、住民の消火器・火災報知器などの必要性と防災に対する意識の向上を図ることができた。	
重点取組②	歴史まちづくり課	・市内地域遺産の実態把握	A	・市内各所の地域遺産実態調査	【調査範囲】 ・西部地区	・年度末	・西部地区における特徴的な民俗行事の実態を把握する。	・実施集落ごとに住民への聞き取り調査を行い、基礎情報の整理を行う。 ・聞き取り調査を通じて住民への行事価値を再認識してもらい、諸制度による価値付けの検討を行う。	・西部地区において、特徴的な民俗行事の調査を実施(25集落)	・引き続き、聞き取り調査などを実施し、その行事を再認識してもらうためのマップ等の作成を行う。	・西部地区の特徴的で、かつ広範囲で行われていた「鹿島行事」について、分布・内容等のパンフレット(横手の地域遺産)として、市内の公民館等に年度末まで配布。併せて、市のHPにも掲載。	・行事の開催日が重複しており、写真等は依頼するなどし、広く収集に努めた。 ・地域により、行事の開催内容の変化や一時休止など出てきており、過去の記録等の収集にも努めた。 ・行事に向けた準備、課題などについても聞き取り調査を実施した。	・行事を取材することにより、地域住民の関心を持っていただき、価値について再認識していただいた。 ・地域の行事を守り、継承している範囲や広がりを感じて、郷土の伝統文化を知る機会となった。
重点取組③	歴史まちづくり課	・歴史的風致維持向上計画の策定	A	・歴史的風致維持向上計画	・三省庁協議を3回実施済み ・庁内コア会議(課長会議4回、担当者会議8回)実施済み	・年度末	・歴史的風致維持向上計画の概要を決定する。	・継続して三省庁協議及びコア会議を実施し、関連部局等との調整を行う。 ・法定協議会を設置し計画内容の調整を行う。	・5月と8月の2回、三省庁(国交省、文化庁、農水省)協議を実施。 ・庁内コア会議(課長会議1回、担当者会議2回)を実施。 ・有識者を招き、9月4日～5日に概要説明会を実施し、計画への指導を受けた。	・12月定例会で法定協議会に係る報酬案例の一部改正案を上程し、議決後に法定協議会を開催、計画内容の協議を実施予定。 ・年度末まで、三省庁協議を重ね、計画の骨格を固める。 ・関連部局との事業調整を実施。	・三省庁(国交省、文化庁、農水省)との協議を5回実施し、計画の骨子について協議済み。 ・庁内コア会議を三省庁協議に合わせ開催し、事前の調整を図った。 ・有識者による現地指導、三省庁の現場視察を実施したほか、第1回法定協議会を開催した。	・三省庁との協議を進め、計画策定スケジュールの進捗を図るため、協議日程を確保し、それに向けて綿密な作業スケジュールを作成し、取材・本文の作成などを実施した。 ・法定協の開催にあたり、関係機関の代表など委員への事前説明では、十分な資料を準備し、機会を捉えて直接概要説明を実施した。	・三省庁の協議における指摘や指導などに対して、集中的に対応することにより、今年当初の計画策定スケジュールに沿った、進捗を図ることができた。 ・現年度当初に計画している三省庁協議、法定協議会など全種の日程調整を進め、ほぼ予定通りの日程を確保した。

■平成29年度

まちづくり推進部 増田まんが美術館事業室 組織目標管理シート

No.	課室所名	目標項目	難易度(ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況(output・input)		成果分析【outcome】	
				目標指標の内容	目標の基準値	目標達成時期	目標値	目標達成のための具体的方法	【現状】	【ギャップと対策】	①達成値・実績値	②取組・行動内容	③目標達成による成果
				(何を)	(目標設定時の状態・比較実績)	(いつまでに)	(どの水準までとする・達成後の状態)	(具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	上期(4月～9月)の取組実績(具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と取組の予定(具体的活動・行動)	(目標の達成状況・現在の状態)	(目標達成のために行った取組・行動)	(目標の達成による効果、目標達成できなかった事由)
業務改善取組①	増田まんが美術館事業室	意思疎通が図られた職場	B	職員個々の業務の進み具合や予定など	業務を行う場所が分散していることもあり不十分	年度末	全ての職員が同じ方向を向いて、お互いの業務を理解し、補い合える	向一スペースで業務を行うことで、よりオープンで綿密な打ち合わせを常時行います	・8月からまんが美術館事業室職員及びまんが美術館財団職員が、増田庁舎の2階で業務ができるようになった。	・職員間で綿密な打ち合わせを行い、スムーズに業務を進めることができる職場を目指す。	・職員一人一人の、当日の業務や行動予定が把握できる。	・毎朝、まんが美術財団の職員も含めて、ミーティングを行った。	・毎朝のミーティングに加え、定期的な打ち合わせを行い、長期的な予定や事業について事前に話し合う場も必要。
重点取組①	増田まんが美術館事業室	増田まんが美術館の経営方針の決定	A	平成31年リニューアルオープン予定の増田まんが美術館の経営方針の見直し	・施設の管理運営は市直営事業 ・マンガに関するソフト事業はまんが美術財団に委託	年度末	・リニューアル後のまんが美術館の経営方針の決定 ・増田まんが美術財団との役割分担を明確化	・12月定例会に条例廃止案(増田ふれあいプラザ設置条例)と新条例案(増田まんが美術館設置条例)を上程します。 ・年内に関係団体等と協議を重ね、経営方針を明確化しリニューアルオープンに向けた準備を進めます。	・条例の廃止と制定については関係課と協議の結果、3月定例会へ上程することとした。 ・運営方針については庁内関係課による検討会を立ち上げ進行中である。	・運営方針については、平成30年度当初予算要求に間に合うよう庁内検討会を継続し、決定できるよう進める。	・マンガ活用構想、基本計画、増田まんが美術館運営方針を策定した。 ・増田まんが美術館設置条例を制定した。	・マンガ活用構想等について関係課が一室に話し協議を重ね、議会や地域づくり協議会などに説明した。 ・設置条例を3月定例会に上程した。	・市としてのマンガ活用のあり方を示すことができた。 ・今後市が担っていく事業が明確になった。 ・設置条例の制定により、平成30年度にリニューアルオープンに向け準備に入ることができる。
重点取組②	増田まんが美術館事業室	あきた未来づくり協働プログラム横手市プロジェクト関連事業の推進と実施	B	プロジェクトを推進するための体制強化とまんが美術館大規模改修工事への着手	・平成27年度策定の横手プロジェクト ・地方創生総合戦略 ・地方創生拠点整備	年度末	・県と協働設置しているプロジェクトチームを中心に、アドバイザーによる講演会等の実施。 ・プロジェクト構想実現に向け、推進協議会の開催。 ・年度内にすべての工事を発注。	・7月～8月にプロジェクトチーム会議を開催するとともに、2名のアドバイザーを講師に迎え、講演会を開催します。 ・プロジェクト推進協議会を開催し、ソフト事業を中心に今後の取り組みについて協議を重ね、まんが美術館リニューアルオープンに焦点を合わせた準備を行います。	・秋田県市町村振興協会主催で、漫画家と2名のアドバイザーを迎え文化講演会(トークセッション)を開催した。	・運営方針決定後にプロジェクトチーム会議及びプロジェクト推進協議会を開催する。	・大規模改修工事に着手し、建築工事と機械設備工事を完了した。 ・マンガ活用構想等について、プロジェクトチーム等に説明し意見を求めながら策定した。 ・文化講演会入場者224人	・あきた未来づくり協働プログラムプロジェクトチーム会議等を開催。	・残る2件の工事の内、展示工事については契約を締結し工事に着手しているが、外構・外装等工事は設計に想定外の時間を要したことや、本工事が雪解けを待っての工事であることもあり、翌年度に契約することにした。
重点取組③	増田まんが美術館事業室	魅力あるまんが美術館の実現とPR活動の強化	A	・原画収蔵数の増加 ・移動特別企画展の開催とPR活動	・平成28年度末の原画収蔵数102,565枚 ・前年度特別企画展4回開催	年度末	・原画収蔵追加目標枚数25,000枚 ・デジタルアーカイブ作業継続中 ・増田の街並み及び首都圏等でPRを兼ねた移動特別企画展の開催	・大部数収蔵2人の漫画家と収蔵の交渉を行います。 ・増田まんが美術財団と連携し、PR活動等を行います。	・東京赤坂で横手市出身の漫画家土田世紀さんのマンガの舞台化に合わせて移動特別企画展を開催し、13,000人の来場があった。また、町並みの蔵を借りて2回の移動企画展を行った。	・原画25,000枚の収蔵を行う。 ・継続して収蔵原画のデジタルアーカイブ作業を行う。	・年度末時点の大部数収蔵累計167,761枚、デジタルアーカイブ累計49,847枚。 ・企画展入場者「俺節」13,000人、「マンガアート展」331人、「リぼん展」6,335人「休館中ですが知ってほしいことがあります展」1,200人、計20,000人にPRできた。	・高橋よしひろ氏の原画40,000枚収蔵。 ・デジタルアーカイブ15,000枚実施。	・目標数を越えた原画の収蔵を行った。 ・デジタルアーカイブは予定どおり実施。 ・他のイベントに合わせさらにPR強化が必要。

■平成29年度

まちづくり推進部 横手地域課

組織目標管理シート

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況(output・input)		成果分析【outcome】	
				目標指標の内容	目標の基準値	目標達成時期	目標値	目標達成のための具体的方法	【現 状】	【ギャップと対策】	①達成値・実績値	②取組・行動内容	③目標達成による成果
				(何を)	(目標設定時の状態・比較実績)	(いつまで)	(どの水準までとする・達成後の状態)	(具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)	(目標の達成状況・ 現在の状態)	(目標達成のために 行った取組・行動)	(目標の達成による効果、 目標達成できなかった事由)
業務改善取組①	横手地域課	業務の効率化を図り、正確性を向上させます。	B	課内共有データファイルの整理を継続して行う。 ・横手地域課(N)	年度末	・地域課共有ドライブは第1階層にフォルダー31、ファイル12があり、階層が深く、組織改編前の担当業務ファイルや重複ファイルが累積している。 ・不要なファイル、フォルダを削除していない。	・第2～第3階層までの検索で目的とする業務に正確に到達できること。 ・課内の職員だれもが、目的とする最新ファイルを短時間で参照できること。 ・不要なファイル、フォルダを削除すること。	28年度は、以下項目の作業を繰り返し行い管理を行う。 ①ファイル階層、ファイル名等基本的事項の決定 ②必要ファイルの分類 ③過去ファイルの確認、退避、削除 ④ルールにそったファイル整理 上半期9月まで、下半期3月までを目途に①から④の作業を繰り返して行う。	・昨年年度原案作成した基本的事項の再確認 ・一部不要ファイルの削除、退避を実施	・分類、整理が一部しか実施できなかった。下半期、スケジュールを決め、取り組む。	・地域課共有ドライブ第1階層にフォルダー24、ファイル1。 ・組織改編以前のファイルがだいぶ整理されてきている。	・昨年年度作成した基準に基づき各係でファイルの整理、不用ファイル削除等にとりくんだ。	・目的ファイルの検索時間が短縮され、業務の効率化が図られた。 ・新たに作成、保存するファイルが増えるため、ファイル容量は削減できていない。 ・今後、一定の削減基準を定め、共有し、実行することで、ファイル容量の増加を抑制していきたい。
重点取組①	横手地域課	地区交流センター化に向けた取り組みを推進します。	A	・地域住民への周知を図る ・公民館業務の見直しを図る	年度末	・各地区会議への説明会を開催する。 ・横手地域の公民館業務の方針を決める。	・地域課題の洗い出し。 ・補助金について検討する。 ・公民館業務について、担当課と協議する。	・7月に地域づくり協議会委員、各地区会議役員の合同会議を開催し、説明した。(1回) ・横手地域づくり協議会で地区交流センター事業を実施している地区の視察を行った。(1回2地区) ・公民館長、職員会議を開催し、公民館業務と地区交流センター事業実施後の比較表を作成し、認識を共有した。(館長会議3回、館長職員合同会議1回)	・地区会議役員への説明会は開催したが、各地区会議ごとの説明会は未実施である。地区ごとに調整し実施していく。	地区会議役員、地区担当職員及び公民館職員の地域づくりへの認識と共通理解をすることができた。	・2月に地区担当職員向け、地区会議役員向け説明会を開催した。 ・新たな補助金について元気の出る地域づくり事業申請団体へお知らせ文書を送付した。 ・地域づくり協議会でこの後の地域づくりに向けての提言書をまとめた。	新しい補助金の申請に向けて手順をまとめる。 速やかに申請をしてもらう。	
重点取組②	横手地域課	道路・公園施設等の適切な維持管理を遂行します。	A	①道路の適切な維持管理 ②公園施設の適切な維持管理	年度末	① ・道路管理瑕疵事故の減少と、除雪作業事故ゼロを目指す。 ・要望、苦情に対しては、出来るだけ発信者と現地で立会い詳細の把握に努め、的確な対応を行う。 ・直営班毎に作業前の危険予知、安全・点検確認活動の周知徹底を行う。 ② ・安全確保のため修繕箇所の早期発見、改善により引き続き事故ゼロを目指す。	① ・週2回(火・金)の集中道路パトロールを実施し不備箇所の早期発見に努め、速やかに修繕を行う。 ・毎月月初めにグループウェア(全庁掲示板)に道路不備箇所について情報提供のお願いを掲載し、不備だけ発信者と現地で立会い詳細の把握に努めたが、4月に車両バンク事故が1件発生した。 ② ・公園内の施設利用による事故については無かったが、公園管理作業時の事故(草刈作業時の飛石による物損事故)が5月に1件、8月に1件、9月に1件 計3件発生した。	① 可能な限りパトロールを強化し、情報提供願いの掲載を継続しながら不備箇所の早期発見・迅速対応に努める。 ② 安全点検パトロールを継続実施して公園内の事故防止に努める。 作業前のミーティング(危険・注意事項の相互確認等)の徹底と、草刈作業について安全作業マニュアルを作成し作業実施することで事故ゼロを目指す。	① ・道路管理瑕疵事故 8件 ・道路維持作業、除排雪作業事故 0件 ② ・公園内の施設利用による事故 0件 ・公園管理作業事故 3件	① ・定期パトロール(週2回)実施と情報提供願いの掲載を継続して行い、道路不備箇所の早期発見と迅速対応に努めた。 ② ・作業前ミーティングを行い危険、注意事項について相互確認の徹底を図ると共に、今年度作成した安全作業マニュアルを作業前に確認しながら、作業前ミーティングを行い危険、注意事項について相互確認の徹底を図り、作業事故ゼロを目指す。	① ・今冬の気象状況や、道路舗装部の老朽に伴う不備等により、雪解け時期の補修対応が追いつかず、バンク事故の削減には至らなかった。 ② ・安全点検パトロール(月1回)を来年度以降も継続実施し、事故の未然防止に努めると共に、今年度作成した安全作業マニュアルを作業前に確認しながら、作業前ミーティングを行い危険、注意事項について相互確認の徹底を図り、作業事故ゼロを目指す。		
重点取組③	横手地域課	来庁者が気持ちよくスムーズに目的を達成できる窓口をつくりまします。	B	・来庁者が迷うことのない案内環境づくり ・来庁者を持たせられない窓口体制づくり	年度末	・窓口における庁舎内の場所の問合わせを減らす。 ・単純な届出受付等は係員不在でも行えるようにする。	・庁舎内配置図・業務内容表示の充実を図る。 ・入りの会議開催揭示徹底を呼び掛ける。 ・対象業務の洗い出しと、わかりやすい簡便な業務マニュアルの作成を行う。	・庁舎案内の一部をリニューアルした。 ・昨年度まで地域総務係のみで対応していた証明書発行業務を他係員も行うようにした。 ・証明書交付マニュアルの見直しを市民課へ依頼した。	・案内表示見直しに継続し取り組んでいく。 ・未整備マニュアルを作成するとともに、冬期間に発生する建設係の受付業務に総務係が協力できるようにする。	・前年度に比べ庁舎案内内表示が充実してきている。 ・窓口事務の一部について係間を越えた業務取扱ができています。	・庁舎案内内表示の見直しや新たな案内の設置を行った。 ・窓口での待ち時間が短縮され、係員不在で取扱いできないケースも減少し、住民の利便性が図られた。		

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況(Output・input)		成果分析[Outcome]	
				目標指標の内容	目標の基準値	目標達成時期	目標値	目標達成のための具体的方法	【現状】	【ギャップと対策】	①達成度・実績値	②取組・行動内容	③目標達成による成果
				(何を)	(目標設定時の状態・比較実績)	(いつまで)	(どの水準までとする・達成後の状態)	(具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	上期(10月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)	(目標の達成状況・ 現在の状態)	(目標達成のために 行った取組・行動)	(目標の達成による効果・ 目標達成できなかった事由)
業務改善取組①	増田地域課	職員の情報共有と共通認識による親切で適確な窓口対応	A	職員の意思疎通/連携/見える化	・懸案事項に関して、課内で協議する体制を整った。 ・トラブル解決の経緯が記録されていない。	年度末まで	・統一した報告・連絡・相談記録票を作成し、業務改善の資料として役立てる。 ・共通認識のもとに、的確な住民対応ができる。	・定例の課内打合せ、朝の係打ち合わせを継続し、課内の情報共有を図る。 ・庁内会議の内容伝達により地域局としての意識統一を図る。 ・担当業務以外の業務進捗状況の把握のため、文書管理の徹底を図る。	【現状】 ・毎朝、係単で事務打合せを実施し、1回、庁内会議を実施し、協議内容を職員に伝達。	【ギャップと対策】 ・文書ファイルの保管等にあいまいな部分があるため、具体方法について再確認し全職員の意識統一を図る。 ・年末、年度末ごと、又は事業区切りごとに確実に文書整理を行う。	①達成度・実績値 (目標の達成状況・現在の状態) ・毎朝の係打合せ、週一回の庁内会議とでの伝達による情報共有が定着している。 ・一斉文書整理・整理の実施により、書庫等の整理が進み、文書管理にかかると意識統一が進んだ。	②取組・行動内容 (目標達成のために行った取組・行動) ・極力顔を合わせて情報共有を図ることを目標に係打合せを励行した。 ・課内全職員による一斉文書整理・整理を実施した。(年1回)	③目標達成による成果 (目標の達成による効果・目標達成できなかった事由) ・毎朝の打合せで情報共有が可能なため、事務処理の軽減を考慮し統一した記録票の作成は見合わせた。 ・打合せの励行により、事務連絡の徹底に加え、風通しのよい職場環境づくりができ、他者の業務進捗に配慮できるようになった。
重点取組①	増田地域課	地域住民に親しまれる増田庁舎の利活用	A	増田庁舎の有効利活用と地域の活性化	「とよかんカフェ」として入居していた喫茶事業が撤退、貸事務所の入居がない状況で、リノベーションした庁舎が活用できていない。	年度末	・1階フリースペースが有効活用され、地域住民に親しまれ、世代を超えた交流と活気がある庁舎となる。 ・総務省との調整 ・利用方針の検討・決定 ・総務省との調整 ・利活用アイデア募集(8月～) ・利活用方針の協議、決定(12月～3月末) ・出店者決定(年度末まで)	【出店者再募集】 ・市関係課との調整、協議(4月) ・出店者再募集(5～6月) ※出店希望がない場合 【利活用方針の検討・決定】 ・総務省との調整 ・利活用アイデア募集(8月～) ・利活用方針の協議、決定(12月～3月末) ・出店者決定(年度末まで)	・カフェが出店者、貸事務所入居者の再募集(H29.3～H29.5) ・庁舎運営に関わる意見交換会、地域づくり協議会において、経過報告及び意見聴取実施 ・市内障がい者就労施設へのカフェ出店意向調査により出店者選定、当該事業者との出店準備協議 ・カフェが安定して長く営業でき、地域の賑わいが創出されるよう、市のイベントとの連携等を通じて支援していく。 ・フリースペースの活用により市民活動の活性化や、世代間の交流促進を図る。 ・カフェ出店者の決定及び出店に向け調整・準備する。 ・フリースペースにおける展示コーナーとしての活用を促進する。 ・個人貸スペースを整備する。(WI-5環境、間仕切り等)	・厨房の利用希望者がなく、カフェとしての運営はできていない。 ・使用の制約が少なく、地域の中心、小学校の隣地にある建物のため、フリースペースとしての活用が定着して、利用者に好評を得ている。 ・フリースペースは、住民要望が多かった「団体等の活動・作品展示の場」として活用されている。	・カフェ出店者、貸事務所入居者の募集 ・庁舎運営について、関係機関、住民、関連事業者への意見聴取と協議 ・障がい者就労支援事業者との出店準備協議(2者と協議するも、出店不調に終わってしまった。 ・国からの委託事業のため、事業費及び庁舎利活用の方向性にかかる総務省協議	・フリースペースの有効活用で、庁舎への往来、滞留人口が増え、活気が創出されている。 ・人口や地域事情などが営利目的のカフェ運営は困難なことから、別の角度から地域活性化のための利用方法を模索する。 これまでまんが美術館が持っていた公民館機能を補充する施設として、庁舎1階を利用することを検討した。	
重点取組②	増田地域課	増田消防団の定数確保	B	機能別の役割を担う女性消防団員の加入促進	規則定数261名 H29.4.1現在 増田消防団員 223名 男性 223名 女性 0名 充足率85.4%	年度末	H30.3.31 増田消防団員 230名 男性 225名 女性 5名 充足率88.1%	・通常の消防団員募集に加え、女性消防団員を強調して募集する。 ・災害時等に火災予防組合と連携して炊出しや避難所等での女性に配慮した支援ができるように訓練する。	H29.10.1現在 内訳(男性 229名 女性 3名) 新規入団 15名 退職5名 H29.4.1現在 増田消防団員 223名 男性 223名 女性 0名 充足率85.4%	消防団員の増員については、各地域で積極的に動員しており、新規入団者は昨年度より増加している。女性団員は入団予定以外に交渉中である。	H30.3.1現在 増田消防団 232名 内訳(男性 229名 女性 3名) 新規入団 15名 退職5名 H29.4.1現在 増田消防団員 223名 男性 223名 女性 0名 充足率85.4%	・消防団業務の説明資料の配布を行い、面談等により入団動員した。 ・地域への入団促進について消防団幹部へ周知(年4回)することにより、訪問等により新規入団者の増加を図った。	・毎年減少傾向であった消防団員が年度初めからの入団促進活動の強化により増加した。 ・女性消防団員の入団により、災害時等の避難所における女性に配慮したきめ細やかな支援が活動が期待できる。
重点取組③	増田地域課	増田・狛半内地域センターの地区交流センター化	A	増田・狛半内地区の地区交流センター化のための課題解決	増田4地域センターのうち亀田、西成瀬地域センターは今年度から地区交流センターとして運営を始めたが、増田、狛半内地域センターは地区交流センター化されていない。	年度末	平成30年度に2地域センターが円滑に事業実施できるように組織体制を確立する。	・生涯学習課との情報共有 ・稼働した2交流センターとの合同連絡会の開催(2回) ・各地域センター役員会等での説明、検討会の開催(2回×2センター)	・7/26 4センター合同連絡会 9/21 生涯学習課主催の公民館・地区交流センター合同会議 そのほか各センターごとに総会や役員会等で話し合い、検討を重ねている。	・H30.4からのスムーズな交流センター化移行を目指す調整、準備を行う。(センター長及び事務員の確保) ・予算の策定、事務室の整備	・増田地域センター及び狛半内地域センターともに、運営協議会等と協議して地区交流センターとして平成30年度から事業を実施することになった。	・増田地区及び狛半内地区の地区交流センター体制が完了し、平成30年度から4地区ともに住民主体による地域運営が行われる体制となった。これを契機として住民が主体的に地域課題を掘り出し、解決に向けた取組を行うことが期待される。	
重点取組④	増田地域課	交通安全への意識高揚と組織体制の強化	B	啓発活動と交通指導隊の拡充	規則定数 10名 H29.4.1現在 増田交通指導員 8名 男性 4名 女性 4名 充足率 80.0%	年度末	H30.3.31現在 増田交通指導員 10名 男性 4名 女性 6名 充足率 100.0%	・年2回のチラシ配布 ・交通安全関係会議等への積極的な参加と交通指導員のPR ・地区交通安全協会との連絡調整と交通指導員のPR	規則定数 10名 H29.10.1現在 増田交通指導員 8名 男性 4名 女性 4名 充足率 80.0%	・啓発活動については、のぼり旗の掲揚、チラシの全戸回覧、広報巡回等を行った。 ・指導員募集については交通安全協会主催のイベント等で指導員確保への協力依頼を行っている。また個別への交渉も随時行っている。	H30.4.1 増田交通指導隊員 10名 男性 6名 女性 4名 充足率 100%	・啓発活動については、のぼり旗の掲揚、チラシの全戸回覧、広報巡回等を行った。 ・指導隊員募集については交通安全協会主催のイベント等で指導員確保への協力依頼を行っている。また個別への交渉も随時行っている。	・指導隊員が定数の10名になることにより、より積極的な交通指導、啓蒙活動が期待できる。
重点取組⑤	増田地域課	地域特産品開発の可能性調査	C	チョウザメの冷泉水での飼育調査	平成28年度で稚魚50匹伏流水で飼育し、生存率72%であった。	年度末	稚魚販売業者の指導のもと、業務委託先の(株)天下森集興公社と情報を共有し、稚魚を含む水質悪化を防ぎ、個体の成長を促進する。	・年度当初の2年魚以上の個体は208匹だったが、9月末時点では194匹となっている(生存率93%)。 ・7月に飼育開始した稚魚(1年魚)は108匹だったが、9月末時点では56匹となっている(生存率52%)。 ・稚魚(1年魚)については、過去2年のデータに基づき管理。	・2年魚以上の個体の生存率は高いため、現状通りの管理を続ける。 ・今年の稚魚(1年魚)については、餌の食いつきが良く、成長速度も速いため、餌不足になった可能性があることと、給餌量を増やして対応する。 ・現時点で全体の生存率が79%であるため、1年魚の餌の管理・水槽の衛生状態を良好に保つことを徹底する。	・3/13現在の生存率 47%	・生存率の状況を確認しながら庁内関係各課及び委託業者と事業化の可能性を検討した。 ・施設の老朽化により改修等の設備投資に多額の経費が必要であり、この生存率は費用対効果が低いことから事業化は難しいと思われる。		
重点取組⑥	増田地域課	一社)増田町観光協会との連携強化	B	指定管理施設や各種行事の運営の役割分担の明確化	協会事務局と地域課担当との役割分担や協力体制が明確でない。	年度末	観光協会と地域局との役割分担が明確となり、相互連携が図られている。	・調整会議を年に3回開催する。 ・市の他部署の情報把握に努め、必要に応じて協会に情報提供していく。	・調整会議の開催は前期1回だけにとどまった。 ・他部署の情報提供を通宜おこなってきた。	・調整会議としては前後期各1回の開催であった。 ・市の他部署や観光協会内に関連する情報を適宜提供した。	・調整会議は年2回の開催にとどまった。 ・引き続き、他部署の情報提供に努める		

■平成29年度

まちづくり推進部 増田市民サービス課

組織目標管理シート

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況[Output・input]		成果分析[Outcome]	
				目標指標の内容	目標の基準値	目標達成時期	目標値	目標達成のための具体的方法	【現状】	【ギャップと対策】	①達成値・実績値	②取組・行動内容	③目標達成による成果
				(何を)	(目標設定時の状態・比較実績)	(いつまで)	(どの水準までどうする・達成後の状態)	(具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)	(目標の達成状況・ 現在の状態)	(目標達成のために 行った取組・行動)	(目標の達成による効果、 目標達成できなかった事由)
業務改善取組①	増田市民サービス課	窓口業務の迅速な対応と各種相談に対する適切な対応	A	1階執務スペースで証明書等交付業務を、2階ではすべての業務を行うように区分けし、更なる情報の共有化と迅速かつ丁寧・親切な対応	通年	市民から信頼されるマナーアップと、相互の業務を共有し迅速かつ親切丁寧な対応に努める ・窓口対応マニュアルを現状に合わせて修正及び更新	・1階行政窓口で行う業務を住民票、印鑑証明、税務証明(一部分)等の交付及び温泉入浴券、計きゆうマナー券の交付に限定。ほか案内業務も行った。2階では証明書等交付の他、市民サービス課に係る全ての業務を行った。 ・業務について情報共有を図り、担当者が不在でも来庁者に適切に対応できるようにお互いにスキルアップに努めた。	・下期後半の申告相談従事(1～2人)による課員の減少と住民異動繁忙期が重なることで来庁者に不都合を掛けることがないようマニュアルの整備等更なる工夫を必要とする。 ・行政窓口を常時営業するためには交代シフトの見直しを必要とする。	・来庁者からの苦情がなかったことから、概ね受け入れられたと思う。	・1階と2階の業務について、必要性和範囲及び時期を見極め、行政窓口開庁と交代シフトを工夫することで来庁者に不便を感じさせないようにした。	エレベーターの設置により、高齢者等が楽に2階へ来られるようになったことから、概ね達成できた。		
重点取組①	増田市民サービス課	職員の情報共有と窓口対応についてのスキルアップによる来庁者に不便をかけない	A	職員が互いの担当業務について情報とスキルを共有することで、担当者が不在でも来庁者に不便をかけないようにする	通年	・待ち時間の短縮 ・クレーム発生ゼロ ・窓口対応マニュアルの更新	・それぞれの担当業務内容を主担当、副担当づけることで情報の共有を図り、来庁者に対し迅速かつ適切な対応をすることができた。 ・来庁者への積極的な声掛けを心がけ、要件を聞き取ることで適切な案内ができた。 ・直直マニュアルについては更新途中。	・「窓口対応マニュアル」を見直し整備する。 ・マニュアルの勉強会を前期1回、後期1回の実施をする	・職員間の情報共有が図られた。 ・日直マニュアルを更新した。	・声掛けを行うことで、来庁者の不安を払しょくできた。 ・各業務マニュアルを都度整備して情報を共有した。	・人員不足は、担当課だけでは解決できないが、声掛けや案内等を行うことで、来庁者に不便をかけることなく、待ち時間も苦情には至らなかった。		
重点取組②	増田市民サービス課	健康状態未把握者に対する高血圧予防を中心とした保健指導の充実	A	40歳～69歳の健診調査票(H27～29年度)の3年間未回収者の健康状態・血圧値の把握と保健指導	年度末	・未回収者の健康状態把握 ・高血圧問題者の発見と保健指導 ・30年度特定健診(国保加入者)を勧奨	・3年間、健(検)診調査票未回収者の名簿作成 ・国保データベースの活用により把握し受診を把握し、健康状態未把握者を絞り込み、対象者を選定する。 ・訪問等での血圧値状態の把握と高血圧者の把握 ・次年度、健診の受診勧奨	・システムでの名簿と国保データベースを照らし合わせさらに選定し、訪問等実施。	転出・死亡があり、対象者101人。訪問は100%実施。 ①不在にて連絡しない者:20人 ②把握できた者:81人	初回は家庭訪問の実施により、調査票提出の依頼と健康状態の把握を促す事が出来た。また、どこでも健診を受けていない方には、市の健診を勧めてきた。昨年会えない方も今年で状況把握ができたなど、継続実施することが大切。 増田地域の調査票回収率 現在 81.4%	調査票提出の依頼をきっかけに本人や家族の健康状態の把握、職場健診を受ける。治療中の疾病があるなど聞き取れる事が出来た。また、どこでも健診を受けていない方には、市の健診を勧めてきた。昨年会えない方も今年で状況把握ができたなど、継続実施することが大切。 増田地域の調査票回収率 現在 81.4%		
重点取組③	増田市民サービス課	乳がん・子宮がん検診受診勧奨とその把握	B	H29年度 乳・子宮がん検診無料年齢者で、検診受診状況未把握の者に対して、状況把握及び、検診の勧奨する。	年度末	・検診状況未把握の名簿作成 ・追加検診までに、未把握者への電話、通知等での状況把握及び受診勧奨をする。	・増田地域での婦人科検診は終了し、対象者名簿は完成した。	・11月の全市の追加検診に合わせて、対象者に電話等で、検診状況の把握をする。	検診状況の把握・受診勧奨できた者 乳がん30人(対象者に対して95.7%) 子宮がん32人(対象者に対して91.4%)	対象者に電話により、検診状況確認をした。聞き取る中で未受診者に対しては、がん検診の受診勧奨をした。日中不在のことも多く、18:00以降連絡がつく方が多かった。 また、調査票未提出者の訪問と合わせて把握することもできた。	連絡がとれない方もいて、100%把握できなかったが、状況把握することで、職場等でも、がん検診未検診の方に、検診をすすめることができ、市の検診申込みが乳がん検診は12人、子宮がん検診は2人の申込みがあった。検診計2人。 また、状況把握の電話をするにより、H30年度の健診調査票の提出にもつながり、昨年度は提出できなかった方も提出があった(34人)		
重点取組④	増田市民サービス課	増田地域子育て支援ネットワークと子育て支援機能の充実(交流の場の提供と交流促進)	A	・地域の関係機関がネットワークを通じて連携し、常に情報を共有しながら子育て支援を拡充する	年度末	・ネットワーク会議 2回 ・子育て講演会 1回 ・実務者会議 2回 ・乳児健診等検診支援 随時 ・育児講座 年8回	・2月25日に第1回ネットワーク委員会及び実務担当者会議を実施した。 ・12月(冬休み前)に第2回実務担当者会議を開催予定。 ・2月15日に中学生と保護者を対象とし、食育をテーマに講演会を開催予定。 ・3月に第2回ネットワーク委員会を開催予定。	・委員会の司会進行を担う委員長が新任学校長であるため、第1回の進行を事務局が行った。運営要綱に沿った形で進めるため委員長との調整が必要。 ・2月25日に第1回ネットワーク委員会及び実務担当者会議を実施した。	・年2回の実務者会議を実施し、関係機関と情報共有した。 ・必要に応じて連絡を取り合いながら、関係機関と連携し取り組んだ。	・実務者会議では、要支援家庭の近況を把握することができた。 ・心配なケースについては、その都度、関係機関と情報共有し、対応することができた。 ・子育て講演会の実施(アンケートも実施) ・ネットワーク会議 ・育児講座の実施	・実務者会議では、要支援家庭の近況を把握することができた。 ・心配なケースについては、その都度、関係機関と情報共有し、対応することができた。 ・子育て講演会の実施(アンケートも実施) ・ネットワーク会議 ・育児講座の実施		
重点取組⑤	増田市民サービス課	地域と連携した保育実践の取り組み	A	○増田小学校との交流体験 ・小学校授業参観 ・小学校教員の保育士体験 ・小学校1年生と年長児の交流あそび	年度末	○幼児期の終わりで育ててほしい幼児の姿 ・健康な心と体・自立心・協同性 ・道徳性・規範意識の芽生え ・社会生活との関わり ・親孝行の芽生え ・自然との関わり、生命尊重 ・数量や図形、文字などへの関心、感覚 ・言葉による伝え合い ・豊かな感性と表現	・幼小連携事業～増小一年担任保育士体験・増小児童保育園訪問・年長児増小訪問 ・地域交流～いわな稚魚放流・農業体験・敬老会に年長参加 ・情報発信～毎月の園だより・行事等の写真展示 ・安心安全～緊急メールで感染症情報発信	・幼小連携事業による保育士、小学校教諭の交流、保育園年長児と小学校一年生の交流 ・避難訓練毎月実施 ・防犯訓練毎月実施 ・洪水時避難訓練年1回実施 ・緊急メール配信・引き渡し訓練 ・安全点検の実施 ・保護者アンケートの実施	・幼小連携推進委員会・安全委員会を組織し、チームが中心となり計画・立案・実践へとけん引する姿勢づくりをする。 ・避難訓練毎月実施 ・防犯訓練毎月実施 ・洪水時避難訓練年1回実施 ・緊急メール配信・引き渡し訓練	・小学校、保育園の子ども達の状況を知り、授業や保育の仕方に触れたり体験したりして、互いの発達と生活の様子を知り、理解を深めることができた。 ・安全委員会を中心に確実な訓練の実施ができた。			

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況(Output・input)			成果分析[Outcome]	
				目標指標の内容	目標の基準値	目標達成時期	目標値	目標達成のための具体的方法	【現状】	【ギャップと対策】	①達成度・実績値	②取組・行動内容		③目標達成による成果
				(何を)	(目標設定時の状態・比較実績)	(いつまで)	(どの水準までとする・達成後の状態)	(具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)	(目標の達成状況・ 現在の状態)	(目標達成のために 行った取組・行動)		(目標の達成による効果、 目標達成できなかった事由)
業務改善 取組①	平鹿 地域課	地域に信頼される窓口業務の確立と職場の連携強化	A	・窓口業務全般 ・課・局の枠にとらわれず職員が連携して業務にあたる	・全員が複数の業務に対応をする。 ・情報の共有化を図る	年度末まで	・地域住民からの多種多様な要望等に対応できるようにする ・係内はもちろん関係各課との情報の共有化を密にし、周知を図る	・来庁者等への丁寧な対応や担当不在時の報・連・相の周知徹底 ・連携して業務にあたり業務改善、検討課題に対応できるようにする ・局・係内の業務を相互に協力しあえる関係づくりの推進及び情報の共有化を図る	・情報共有については、課長・係長会議や回覧版で周知、課内で声掛けしている。 ・地域局全体で取り組んだイベント等 ・あやめまつり(6/24～7/2) 大森災害ボランティア(7/24～8/1) 地区敬老会(9/26～28)	・新庁舎への引越しについては、事前に対応を周知し計画どおりに進むよう地域局全体で取り組む。 ・新庁舎での業務開始については、職員が躊躇し市民が戸惑うことなく用事が済み、窓口でのプライバシーが保てるよう対応する。	・新庁舎での窓口対応については、当初戸惑う市民もいたが職員が誘導し業務にあたった。窓口業務ではプライバシーが保てるよう対応しており市民が安心して相談している。 ・横手のイベント等の動員については、地域局全体で協力して取り組んだ。また、課全体で協力して業務に当たっている。	・来庁者アンケート箱の設置 ・来庁者要望事項の改善(トイレ看板の表示、Wi-Fiの接続方法の周知、市民交流スペースの利用案内、各新聞紙の閲覧) ・年間を通して6件のイベント等を地域局で連携して実施 ・新庁舎への引越しについては、地域局・図書館・消防分署が連携して計画どおり実施できた。	・窓口業務については、引き続き来庁者への気配りを中心掛けて業務に当たる。 ・地域局全体で今後も情報共有し大きなイベント等については、連携して実施する。 ・今後も平鹿消防分署との情報共有に努め火災・災害時の連携強化を図る。	
重点取組 ①	平鹿 地域課	平鹿地域多目的総合施設建設への移転と現平鹿庁舎の利活用策の検討	A	①平鹿地域多目的総合施設の10月供用開始 ②現平鹿庁舎と敷地の利活用策の検討	①工事進捗率44.4% ②検討委員会を立ち上げる	①10月末まで ②年度末まで	①平鹿地域多目的総合施設については、10月末の供用開始を目指す ②検討委員会を立ち上げ、地域関係団体等と意見交換し利活用策を検討していく	①継続工事に続き、太陽光発電設備・付帯工事・外構工事を順次発注し10月上旬まで完成させ、10月下旬に供用開始する ②利活用検討委員会を立ち上げ、意見交換や要望等を集約する。利活用策については、地域住民等との相互理解と協力を仰ぎながら官民協働での方策を検討する	①平鹿地域多目的総合施設について ・工事関係は外構工事を除いて8月末まで完成 ・外構工事を7月に発注し10月末の供用開始に向けて協議・調整 ・10月末の供用開始に向け関係機関の調整完了。平鹿図書館は9月1日より休館し引越し作業にはいる ②利活用検討委員会の委員選定及び調整	①平鹿地域多目的総合施設については、予定どおり完成し10月29日に移転した。 ②利活用検討委員会を立ち上げ各委員より意見や要望等を集約し方向性を確認。今後は事業計画を検討し協議する。	①平鹿地域多目的総合施設について ・移転についての関係各課との調整・協議 ・引越業者との調整・協議 ・10月28～29日に職員による移転作業 ・11月1日に開所式を立ち上げ ②利活用検討委員会を立ち上げ会議を2回開催し各委員より意見・提案を集約	①平鹿地域多目的総合施設について ・地中熱設備の導入により冬期間の経費が削減された。(前年比:12～2月の3ヶ月で約70万円の削減) ・平鹿庁舎と平鹿消防分署が一体となったことで急な案件も直ぐに対応でき情報共有も進むようになった。 ②利活用検討会議での意見集約・提案要望を受け、今後は具体的な利活用策の方針を決めていく。		
重点取組 ②	平鹿 地域課	吉田生涯学習センターと醍醐公民館の交流センターとしての適切な推進	A	・交流センターとしてのスムーズな事業運営組織の確立 ・委託業務契約に基づく適正な事業計画の策定	・各公民館職員が色々協議して事業等を企画しているが、参加者が伸びていない。	年度末まで	・各地域内組織との連携を図り、地域に密着した交流センターを目指す。 ・地域住民が参加しやすくなる事業等を企画し、地域住民が集える交流センターを	・吉田地区交流センターは4月14日、醍醐地区交流センターは4月18日に設立総会を開催し、スタートしている。 ・運営協議会の委員も巻き込み、地域住民が関心を持ってもらえる企画を進める。	・各交流センターの事務監査を10月4日に実施予定だが、後期に向けての検討も併せて行う。 ・事務量が増え、慣れない業務の為に、統一した詳細なマニュアルが必要と思われる。	・委託業務契約に基づく事業については的確に運営し、参加者にも関心を持ってもらえた。(各事業への参加者は増えているが、トータル的にはほぼ同じとなっている) ・今年度は各交流センターで地域住民が関心を持っている「健康についてのセミナー」や地域住民のボランティアなどにも新しく取り組んでいる。	・上半期終了時の10月4日に吉田地区交流センター並びに醍醐交流センターの事務監査を行い、下半期に向けての指導を行い、今年度の事業の運営を確認した。 ・その他にも適宜打ち合わせを行い、スムーズな運営を目指した。 ・下半期の事業終了に合わせ3月12日に吉田地区交流センター並びに醍醐交流センターの事務監査を行い、今年度の事業の運営を確認した。併せて新年度に向けての指導を行った。	・ある程度の地域のまとまりは図れたように感じるが、まだ、地域全体のまとまりには数年かかるものと思われる。 ・生涯学習だけの活動から、前知を模索しなら進めているが、また年数が係ると思われる。		
重点取組 ③	平鹿 地域課	特色ある地域資源を活用した産業・観光の推進による地域活力の向上	A	地域資源を活かしたイベントを充実させ、地域の活性化を図る。	・各イベントのH28来場者数 ・あやめまつり 4.9万人 ・浅舞八幡神社祭典 1.4万人 ・槻の木光のファンタジー0.8万人	年度末まで	・各イベントの来場者数を5%増加させる。	・各イベントの来場者数 「あやめまつり」6.5万人 「浅舞八幡神社」1.4万人	・今後開催するイベントについて市報、デジタルサイネージ等を活用してPRを強化する。 ・槻の木光のファンタジー事業については、生物川、大森、大雄3地域のイルミネーション事業と連携して来場者のアップに努める。	・10月以降のイベントの来場者数 「槻の木光のファンタジー」0.8万人	・マスコミ報道、SNSなどで情報発信して各イベントの来場者アップに努めた。 ・槻の木光のファンタジーの来場者アップのため、今年度も「ひらかコスプレイベント」を開催した。	・「あやめまつり」の来場者は、期間中の好天に恵まれ昨年より30%アップとなった。 今後は更なる集客アップに繋がるように、イベント内容の充実と情報発信の強化に努める。		
重点取組 ④	平鹿 地域課	安全・安心で住みよい地域環境の確保	A	・道路、公園施設の適切な維持管理をする。 ・各地域要望に対して迅速且つ適切な対応をする。 ・要望、苦情等の処理に対する市民満足度の向上	・道路、公園施設での発生事故0件 ・H28道路瑕疵事故0件 ・H28公園内瑕疵事故0件 ・要望、苦情等の処理に対する市民満足度の向上	年度末まで	・道路、公園施設の安全パトロールの強化と、修繕箇所の迅速な作業により、事故防止に努める。 ・依頼者との現地立会いにより、詳細な現場状況を把握し適正な作業を実施する。	・通常パトロールに加え、建設部との合同パトロールを実施し、修繕箇所の早期発見と迅速な修繕作業を行った。 ・冬期間の道路パトロールを強化し、不備箇所の早期発見、修繕に努める。 ・市民からの要望、苦情等の迅速な対応を継続する。 ・公園内の樹木、施設等の安全パトロールを継続して行う。	・冬期間の道路の穴はこ補修は、仮舗装のため交通量の多い修繕箇所が早期に補修できることから、パトロールをこまめに実施し瑕疵事故を未然に防止した。 ・地区、市民からの要望は、早期に現地立会いを実施し、内容の詳細を把握することで迅速な修繕等の対応ができた。	・建設部及び関係機関からの不具合箇所の情報提供により、早期発見、迅速な修繕作業を行った。 ・地区要望箇所の対応は11月末までに完了	・冬期間の道路の穴はこ補修は、仮舗装のため交通量の多い修繕箇所が早期に補修できることから、パトロールをこまめに実施し瑕疵事故を未然に防止した。 ・地区、市民からの要望は、早期に現地立会いを実施し、内容の詳細を把握することで迅速な修繕等の対応ができた。			
重点取組 ⑤	平鹿 地域課	地域に親しまれる市営温泉施設「ゆっふる」の運営	B	・地域密着型交流施設の推進 ・利用者数の維持増加	①年2回実施している自然散策会の平成28年度参加者数は、94人であった。 ②地元園児を対象とした自然体験学習では、春のほだぎの植樹作業、秋の収穫祭を実施した。 ③平成28年度の売店売上上げは、年間870万円であった。	年度末まで	①自然散策会参加者50人程度で2回開催する。 ②自然体験学習の継続実施と一般来館者への事後周知を行う。 ③年間売店売上上げを10%増とす。魅力ある品揃えで、利用者数の維持増加という目標との相乗効果を図る。	①市報で広く募集するとともに、これまでの参加者に対して個別通知を発送した。 ②地元園児団体や地区会議、保育園等関係団体との連携で開催する。 ③旬の地元産果物や山菜のほか、売れ筋商品の適期発注、来館者への商品説明を行う。	①広報で広く募集することはできなかったが、これまでの参加者を対象に個別通知を発送し募集した結果、6月11日実施の自然散策会は34人の参加があった。 ②5月16日実施の醍醐保育園年長園児を対象とした自然体験学習では、ほだぎの植樹作業体験を行った。また、ゆっふる施設内にその様子を写真の展示コーナーを設置した。 ③上期の売店売上上げ金額は531万円、目標値の55%であった。	①秋の自然散策会を10月1日に実施予定であるが、開催告知を個別通知と館内掲示で対応し参加募集を行った。 ②自然体験学習秋の収穫祭を10月中に実施予定。 ③冬期間は果物や山菜を中心に品数が少なくなるから、下期前半での品揃えを充実し売上上げ向上を図る。	①参加者数は1回目34人、2回目37人で目標人数に届かなかった。 ②地元保育園年長園児を対象に5月16日に植樹体験、10月17日に収穫体験・収穫祭を実施する。また、本事業の様子を写真展示し、来館者への事業周知ができた。 ③今年度2月未だの売店売上上げは949万円、3月末までの売上上げ込額は約1,010万円となり目標に達した。	①今年度で10年間20回実施しており、リピーターが定着してきている。事業実施告知の一層の工夫により、参加者数の増加を図る必要がある。 ②地元保育園でも恒例行事として位置づけられている。一般来館者へ事業の事後周知を図ること、交流施設としての役割を果たしている。 ③施設の売上上げ増加が図られた。また、来客者への商品説明に際しては、地元産物などの良さを理解してもらうことができた。		

■平成29年度

まちづくり推進部 平鹿市民サービス課

組織目標管理シート

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況[Output・input]		成果分析[Outcome]	
				目標指標の内容	目標の基準値	目標達成時期	目標値	目標達成のための具体的方法	【現状】	【ギャップと対策】	①達成値・実績値	②取組・行動内容	③目標達成による成果
				(何を)	(目標設定時の状態・比較実績)	(いつまで)	(どの水準までどうする・達成後の状態)	(具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)	(目標の達成状況・ 現在の状態)	(目標達成のために 行った取組・行動)	(目標の達成による効果、 目標達成できなかった事由)
業務改善取組①	平鹿市民サービス課	体制の整備	B	市民サービスの向上をめざし、担当業務の整備をします。	課内3係において、市民生活部と健康福祉部の業務が混在しています。	年度末	市民生活部所管業務は市民生活係、健康福祉部所管業務は健康推進係及び保健福祉係で担当します。	健康推進係が新庁舎へ異動する機会に係統合を含め、課内及び関係部と協議を重ねる。新年度には新たな体制にします。	4月の異動期に人事配置を考慮しながら、「市営墓園・墓地」に関する業務を健康推進係から市民生活係へ担当替えしました。	ごみ・環境業務は健康推進係が担当しており、人事課との協議をしながら、市民生活係へ担当替えします。	「市営墓園・墓地」に関する業務を健康推進係から「空き家」業務を保健福祉係から市民生活係へ担当替えしました。ごみ・環境業務の移行は行えなかった。	3係長との調整及び業務に則した人員配置	市民生活係の従来業務と連携が図られた。 ごみ・環境業務は長期休暇者の配置などを考慮し行わなかった。
重点取組①	平鹿市民サービス課	住民目線に立った、迅速かつ正確な窓口対応	B	窓口業務全般	業務内容の把握と丁寧な窓口対応	年度末	・係全員が複数の業務をこなせるようにします。 ・お客様の待ち時間を短縮します。 ・担当者が不在でも、お客様に適切な対応ができるようになります。	・お客様へ明るく元気な挨拶と積極的な声かけを行います。 ・各種研修に参加してスキルアップを図ります。 ・係内でのコミュニケーションを多くし情報共有を図ります。	・来庁者に対して積極的な声掛けや挨拶ができています。 ・係内でのコミュニケーションはうまく取れており、主担当以外の業務に対する助言をしながら、複数業務をこなせるようになっていきます。	・今後もお客様へ明るく元気な挨拶と積極的な声かけを心がけます。 ・係内でのコミュニケーションはうまく取れており、主担当以外の業務に対する助言をしながら、複数業務をこなせるようになっていきます。	・来庁者に対して積極的な声掛けや挨拶が以前に増してできています。 ・係内でのコミュニケーションはうまく取れており、主担当以外の業務に対する助言をしながら、複数業務をこなせるようになっていきます。	係内のコミュニケーションを多くとり、業務に対する助言などを言い合うよう心がけ、情報共有を図るようにしました。	係員がそれぞれ複数業務をこなすことにより、お客様の待ち時間短縮につながっている。
重点取組②	平鹿市民サービス課	相談者への寄り添った対応と対応力の強化	B	・相談者の話を聴きとり受容します。 ・各制度について解りやすい説明を行います。	係内3名中、調査や訪問等で外勤することもあり、窓口対応者が限られます。	通年	・相談者が再度来庁した際、係内職員のうち誰かが対応できる体制をつくります。 ・制度についてのリーフレット等を作成し説明を行います。	・職員の各制度に対するスキルアップ ・係内の情報共有 ・制度のわかりやすいリーフレットの作成	・各研修会へ参加し個々のスキルアップを図りました。 ・次回の相談に繋げられるよう相談記録を作成し、情報を共有しました。	・ケース記録を用いて、今後も情報共有を図ります。 ・既存のリーフレットも見直し、来庁者が更に理解しやすいものに改めます。	係内で情報共有したほか、関係機関(ケアマネ、社協等)とも情報を共有し対応しました。	相談者の話しを丁寧に聴き取り、不安要素の軽減に務めた。 ケース記録により情報共有を図りました。	係内、関係機関と情報共有することでより善い対応ができたが、解決まで至らないケースもあり、今後も個々のスキルアップを図りながら対応にあたります。
重点取組③	平鹿市民サービス課	生活習慣病予防についての意識を高める	B	若年・中高年への健康意識向上のための啓発活動	H28年度【若年】 ①小学校等における健康教室：生活習慣病予防教室1回 防煙教室1回 赤ちゃん訪問での保護者の血圧測定 64人【中高年齢期】 ②個別健康相談：特定健診等時の保健指導 1,325人	年度末	①小学校等を会場とした児童への生活習慣病予防等に関する健康教室について各校1回(計3回)実施 ②健診時および地域での健康相談を実施する際、身近に感じられる媒体として平鹿地域の血圧値の現状について作成したリーフレットを使用し高血圧予防の重要性について啓発活動を実施します。 ③受診率の向上に向けて子宮がん検診・乳がん検診の未受診者へのコール・リコールを実施します。	①小学校3か所の小学校において生活習慣病予防についての講話を実施し、小学校4年生対象 3回 計91名 ・若年層の血圧測定実施：赤ちゃん訪問保護者27人(父3 母24) ・4か月児健診保護者35人(父1 母34) ・壮年期・高齢期・・・特定(後期高齢)健診受診の際の保健指導実施 1,237人 ・集落巡回健康相談、健康教育、高血圧予防等について啓発活動) 16回 230人	・計画していた事業については学校等関係機関と連携し、概ね実施できている。今後さらに、生活習慣病予防に向けて小児期から高齢期にかけての啓発活動に努める。 ・11月より、受診率の向上に向けて子宮がん検診・乳がん検診の未受診者へのコール・リコールを実施する予定である。子宮がん検診は30～60歳、乳がん検診は40～60歳の対象年齢であることから、受診してもらうよう積極的な勧奨に努める。	・児童健康講話①小児生活習慣病予防(病気の予防&けんこう三原則)管内3か所小学4年生 181人実施 ・若年層の血圧測定実施：赤ちゃん訪問保護者47人(父4人 母43人) ・4か月児健診保護者35人(父1人 母50人) ・壮年期・高齢期・・・特定(後期高齢)健診受診の際の保健指導実施 1,237人 ・集落巡回健康相談、健康教育、高血圧予防等について啓発活動) 71回 1,179人 ・子宮がん・乳がん検診のコール・リコールに互相談動件数50件実施	若年層の生活習慣病予防について、児童期からの意識付けのため、春の小児生活習慣病予防健診の際と、10月の健診を振り返る時期に来賓士とともに健康三原則(栄養・運動・休養)の講話を実施 20～40歳の年代には乳幼児健診・赤ちゃん訪問の際に母親を主として血圧測定と健康相談を行った。 コール・リコール事業については、本人との直接の電話相談で増徴ではあったが受診率を増やすことができた。次年度実施についてさらなる受診率の向上を目指す。	健康教育講話の際に児童から感想文を書いてもらったことで、日常生活の振り返りと自分がやってみようと思う意識が育まれていることがわかった。 母親への健康相談・血圧測定等は環境の変化に対応する心身の安定をはかる意味でも有効に感じた。 壮年期・高齢期の保健指導等は健康寿命の延伸を目標として自らが積極的に実施できる健康への行動を促す良い機会になったと思われる。子宮がん・乳がん検診もコール・リコール事業については、本人との直接の電話相談で増徴ではあったが受診率を増やすことができた。次年度実施についてさらなる受診率の向上を目指す。	

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況(Output・input)		成果分析[Outcome]	
				目標指標の内容	目標の基準値	目標達成時期	目標値	目標達成のための具体的方法	【現状】	【ギャップと対策】	①達成度・実績値	②取組・行動内容	③目標達成による成果
				(何を)	(目標設定時の状態・比較実績)	(いつまで)	(どの水準までどうする・達成後の状態)	(具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	上期(10月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)	(目標の達成状況・ 現在の状態)	(目標達成のために 行った取組・行動)	(目標の達成による効果、 目標達成できなかった事由)
業務改善取組①	雄物川地域課	市民サービスの向上	A	・市民満足度	・いまの現状	年度内	・改善事例の増加	・職員一人一人が実際に行った具体的な市民サービスの向上に向けた取組みを明確にし、目標の達成を図る	・職員一人一人が実際に行った具体的な市民サービスの向上に向けた取組みを明確にし、目標の達成を図る	・職員一人一人が実際に年間2事例以上の改善策を実施した ・事例～①丁寧な応接や電話対応 ②市民へ安全配慮 ③苦情、クレームに対する的確な対応 ④HPや市報、地域たより、交流センター報等の発信強化	・職員ひとり一人が市民満足度の向上を目的に改善事例を意識しながら職務や市民の対応を行った。 ・明確な目標を設定しながら事例にあった	・職員による具体的な行動、活動が市民満足度の向上に繋がり、感謝の言葉をいただいた。 ・職員のやる気、スキルアップになった。 ・今後の業務に生かしていくことが大切なことと理解した	
重点取組①	雄物川地域課	みんなが輝くまちづくり	A	・市民が主役のまちづくり	・市主導から住民と行政の協働したまちづくり	年度末	・雄物川地域の5つの地区会議と5つの地区交流センターを主とした新たな地域づくり組織の展開とリーダー人材の育成	・5つの地区会議の充実 ・5つの地区交流センターの設立と円滑な運営 ・地域づくり協議会の発展的解散	・地区会議の開催(沼館1回、里見2回、福地3回、大沢1回、館合3回) ・5つの地区交流センターとの事業委託契約の締結 ・地域づくり協議会の開催(4/19、6/6)	・市職員の地域活動への積極的参加 ・地域要望の吸い上げや地域と行政の連絡調整 ・地域づくり協議会の開催(元気ができる事業の仕分け、雄物川庁舎のあり方基本方針等)	・地区会議の開催(福地1回、館合2回、大沢1回、沼館、里見なし) ・今後の地域づくりに関する地区会議向け説明会の開催(2/23) ・地域づくり協議会の開催(11/22、2/1、3/8) ・地区交流センター設立後、館長会議(4回)、事務員会議(7回)開催。 ・5地区交流センター運営協議会を設立、委員が地域づくりの中心となる。	・今後の地域づくりの方向性について、各地区会議正副議長・各地区交流センター職員向けの説明会で情報共有を図った。 ・地域づくり協議会の開催(地域色のある事業が継続できるよう元気の出る地域づくり事業を仕分け、雄物川庁舎のあり方基本方針の説明)。 ・各地区交流センター運営協議会と、情報共有を図りながら、委託事業を運営した。	・今後の地域づくりの方向性について地域色のある事業が継続でき、今後地域資源を活用した事業が展開できる。 ・5地区交流センターの設立で、事業委託は円滑に運営でき、地域住民の事業への参加が増加した。
重点取組②	雄物川地域課	公共温泉施設の在り方	A	・えがおの丘 ・雄川荘	・市提案の公共温泉施設の在り方、再編方針の概要	年度末	・えがおの丘～民間譲渡や全市におけるプールの在り方、議会への陳情採択を参考とした対応 ・雄川荘～民間譲渡やえがおの丘存廃による状況判断及び経営改善に向けた具体的な取組み	・プール単独の経費試算と水泳による健康増進、健康回復及び医療費、福祉費に及ぼす具体例の模索 ・赤字削減に向けた具体的な経営改善の方策及び年度別施設投資の詳細計画の作成	・えがおの丘は民間譲渡の方向で進んでおり、プール存続の意向が多岐、健康増進に寄与しているがプール部門は赤字、各種教室を開催し、防力向上や骨折予防に貢献しているほか、仲間づくりや生きがいになっているが、医療費削減の具体的な数値は不明 ・民間譲渡に向け譲渡候補者と調整をしている中、経営改善等も含め現状維持の取組を行っている。	・採算性に重点を置いた料金改定と施設の温熱に係るコスト削減が必要、プールの持つ健康増進機能や水観機能を理解し、高齢者教室をはじめ、就学前の幼児を持つ親子、学童、成人の各種教室の存続の必要性 ・積極的な展開が図れない中、質の低下を招かぬよう現状維持に努め、併せて今後の方向性も受け入れる体制を整える	・えがおの丘・雄川荘は民間の新事業者への譲渡が決定し、4月より新体制で始動することとなった。えがおの丘の水泳教室を含め、ほぼ現行のサービスを継続することを確認している。現従業員(臨時職員等)のほとんどが継続雇用される見込みである。	・施設経費や部門ごとの利用実績、収入実績など、関係各所への資料提供を適宜行なった。 ・えがおの丘の高齢者向け健康運動教室については、健康福祉部の関係課と連絡、調整を図り、継続実施の方向で協議した。	・現行サービスをほぼ変えることなく、施設の民間譲渡が行われる見込みであるため、温泉施設存続、プール存続を訴える市民や施設利用者の声に応じた形となった。 ・えがおの丘については、今後も市民の健康増進に貢献する施設として期待が寄せられる。
重点取組③	雄物川地域課	いろんな声を反映したFM計画	A	・FM計画の推進	・多くの老朽化した公施設	年度末	・適正な施設数への建替え、解体、長寿命化等の実施及び計画策定	・雄物川庁舎のあり方の検討(改築、新築等) ・旧福地小学校校舎、プール、旧福地保育所等の解体 ・福地コミュニティセンターの建設設計 ・消防ポンプ小屋及び小型ポンプの適正配置 ・FM計画の具体的なローリング	・8月政策会議、9月総務文教常任委員会へ第2庁舎の耐震診断を行わず、庁舎建設を再検討する旨を報告了承される ・福地地域の要望を集約するため建設準備検討委員会(委員7名・職員7名)を3回開催し、内容を取りまとめた ・大見内ポンプ置場新築(6/30完成)、町屋敷ポンプ置場の新築予定地の土地取得(8/16登記完了)	・検討委員会を立ち上げ、雄物川庁舎のあり方基本方針を決定し、来年度の予算に反映させる ・福地コミセンの整備検討結果を踏まえ、事業規模を検討し設計業務を発注する ・H29年度中に経積載車3台(大見内・遠山・町屋敷)導入予定。また、遠山ポンプ置場新築(10/31着手、1/19完成予定)、町屋敷ポンプ置場新築(10/31着手、1/19完成予定)	・雄物川庁舎の整備方針を建替えとし、来年度から事業着手する予算内示を受けている。 ・福地コミュニティセンター建築工事基本構想策定業務委託を発注する。 ・平成29年度中に経積載車3台(大見内・遠山・町屋敷)新規導入済み。また、大見内ポンプ置場、遠山ポンプ置場、町屋敷ポンプ置場新築済み。 ・各部から要望を聞き取り、適正な経積載車、小型ポンプの配置を行った。	・雄物川庁舎のあり方検討委員会を立ち上げ、計4回の会議を開催する他、住民アンケートを実施。地域要望を集約した基本方針を作成し、予算要求を行う。2月には市議会全員協議会にて事業概要を説明している。 ・建設準備検討会の要望をとりまとめ事業規模を精算し、財政課等との協議を重ねて事業計画を見直した。 ・各部から要望を聞き取り、適正な経積載車、小型ポンプの配置を行った。	・老朽化している雄物川庁舎の整備方針を定めることにより、FM計画の推進に寄与している。 ・基本構想策定の業務委託により、整備事業計画案を作成する。概算事業費を確定することで、次年度の実施設設計費の予算計上が図れた。 ・経積載車を導入したことにより、災害時に現場まで駆け付ける時間が短縮された。
重点取組④	雄物川地域課	安全で安心して暮らすことができる地域環境	A	・市民満足度 ・危険箇所の早期発見と早期改善 ・災害時における対応及び安全管理	・市民要望(除雪、破損、掃除、苦情等々) ・公共施設の老朽化(道路、橋、建物等) ・自然災害(地震、大雪、大雨、強風等)、人的災害(火事、事故等)	年度末	・要望への対応による市民満足度の向上 ・公共施設の管理不備による事故及び作業事故ゼロ ・定期的な緊急連絡網の確認や災害時初動訓練、消防訓練の実施	・市民要望への的確で迅速な対応及び履歴の整理 ・道路・河川・公園・施設のハトロール強化とチームミーティングの実施 ・有事の際の災害初動対応及び消防団活動	・多くの市民要望に素早い対応を実施した。 ・定期的な日々のハトロールを実施し、不具合等の発見に努めた。 ・7月の大雨災害の対応については、地域局チーム一丸で対応し、早期復旧に取り組んでいる	・降雪期に入っているため、今後も定期的なハトロールを強化し、チームで情報共有に努める ・大雨災害の早期復旧に努める ・各施設の消防訓練の実施	・地区要望に関しては3月中に全面所完了 ・大雨災害については、市道林道等インフラ及び農業関係全てにおいて対応済 ・7月の大雨災害、2月の大雪災害の際に所管施設の見回りや危険箇所をハトロールし、被害を最小限に留めることができた。また、消防団に協力依頼し、冬場の消防水利の確保を徹底した。	・地区要望、市民要望に関しては優先順位付けを行い、緊急性の高い箇所から対応した。 ・ハトロールを強化し、迅速に情報を収集・対応した。 ・災害発生時に地域局、消防署、消防団が連携して活動し、情報共有を行った。	・地区要望、市民要望は現地立会いを実施し、要望内容の詳細を早期に把握することで迅速な対応ができた。 ・国庫負担での災害復旧(市道二井山上溝線)及び暫定法での災害復旧(矢神地区1ヶ所)を除き復旧済 ・自然災害や人的災害に対する初動対応を徹底して行ったため、二次災害の発生を防ぐことができた。

■平成29年度

まちづくり推進部 雄物川市民サービス課

組織目標管理シート

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況[output・input]		成果分析[outcome]	
				目標指標の内容	目標の基準値	目標達成時期	目標値	目標達成のための具体的方法	【現 状】	【ギャップと対策】	①達成値・実績値	②取組・行動内容	③目標達成による成果
				(何を)	(目標設定時の状態・比較実績)	(いつまで)	(どの水準までとする・達成後の状態)	(具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)	(目標の達成状況・ 現在の状態)	(目標達成のために 行った取組・行動)	(目標の達成による効果、 目標達成できなかった事由)
業務改善取組①	雄物川市民サービス課	最も身近な行政窓口として、市民に信頼される確実なサービスを提供する。	B	市民サービス課業務全般	地域局全体の事業・業務の把握と丁寧な窓口対応。	通年	・来庁目的の把握に努め、地域局内の情報収集を図る。 ・住民に理解してもらえらる対応をする。	・地域局内の連携と情報共有化の推進。 ・専門用語など使わずに、わかりやすい言葉で説明する。	・市民が来庁しやすい環境づくりに努め、市民の信頼に応えられるように課内での情報共有を図った。 ・研修に積極的に参加し、担当業務のスキルアップに努めた。	申告時期は、窓口業務にあたる職員が減少することから、課全体で受付対応できるように努めた。また、地域局内の連携を図って、申告相談に向けた体制を整える。	・来庁目的を把握し、混雑時や職員が手薄の際にはあらかじめお待たせする旨を伝えている。窓口を常に意識して、長時間待たせることのないよう声を掛け合い対応にあたっている。 ・安定したサービスを提供するために、職員のメンタルを良好に保つ取り組みをしている。	申告時期に窓口対応が手薄になることを課全体で認識する必要があることから、ミーティングで業務の進捗状況やスケジュールの共有に努めた。 ・昼休みにも多くの来客があるため休憩時間を確保できない環境にあったことから、交代で昼休みに離席できる日を確保する取組を呼びかけた。	・連携して業務を遂行することで、課内で連帯意識がみられた。 ・申告時期を除き、休憩時間を確実に取得できたことが職員それぞれのモチベーション上昇につながった。
重点取組①	雄物川市民サービス課	がん検診の未受診者対策	A	子宮がん・乳がん検診の未受診者を減らす	28年度 子宮がん検診 申込者733人・受診者 488人・未受診者245 人(33.4%) 乳がん検診 申込者702人・受診者 507人・未受診者195 人(27.8%)	年度末	子宮がん検診未受診者の割合 → 30%以下 乳がん検診未受診者の割合 → 25%以下	・初回通知の工夫(わかりやすい内容にする) ・未受診者に対し、パンフレットとともに再通知をする。 ・コール、リコールを徹底する。	29年度 子宮がん検診申込者 569人 乳がん検診申込者 575人 各種健康教室や健康相談の際、受診勧奨に努めた。	地域局では10月3日～10日に検診実施予定。 未受診者に対しては全市で実施する11月～12月の追加検診に向けて、11月13日～17日にコール・リコールで受診勧奨実施予定。	子宮がん検診 申込者569人・受診者393人・ 未受診者176人(31%) 乳がん検診 申込者575人・受診者449人・ 未受診者126人(22.8%)	各種健康教室や電話による受診勧奨に努めた。	コール・リコールを地道に行った結果、目標値に近づけることができた。健診による早期発見の重要性を様々な機会をとおらえて市民へ伝えていく必要がある。 来年度の検診申込みが1月から始まっているので、問合せがあった際にも受診するよう伝えていきたい。
重点取組②	雄物川市民サービス課	生活習慣病予防の推進	B	企業で働く社員への生活習慣病予防教育	28年度 地域内2事業所へ血 庄とたばこの害につ いての健康教育を実 施。 併せて健康に関する 意識調査(アンケート) も実施し202名より 回答あり。	年度末	新たに1か所増やし、3企業の社員に生活習慣病予防教育を実施する。	・実施企業への説明と日程調整等。 ・昨年度のアンケート調査の結果を分析し活用する。	新規の事業所1社を選定済。	新規事業所に対しては、生活習慣病予防の意義を理解してもらいながら実施し、昨年度実施した2事業所については、アンケート結果の分析を基に当事業を実施する予定。	・28年度実施した2企業で、社員向けに生活習慣病予防の健康教育を実施した。 ・開催予定だった新規事業所は、繁忙により未実施となったものの、事業所からは来年度実施要望がでている。 ・非常勤を含む除雪職員への健康教育を実施した。	・2企業では、昨年度実施した健康に関する意識調査の分析結果を活用し、健康教育を実施した。 ・新規事業所と協議し、年度当初に健康教育実施時期を決めることにした。 ・除雪職員へは1月～3月にかけて月1回血圧測定を実施し、喫煙による健康教育を実施した。	企業とそこに勤務する職員が、健康に対する意識を持つきっかけができた。 今後も企業と連携して継続していきたい。
重点取組③	雄物川市民サービス課	見守り支えあう地域づくりの支援	B	地域の共助意識の向上を図る。	地区交流センターを核とした徘徊見守り訓練の実施。	年度末	徘徊見守り訓練を行うことにより、声掛けなど行い、早期発見を可能にする。	徘徊者と思われる人への声掛け方法の助言。	10月19日里見地区での開催に向けて、消防署や警察署、日赤、民生委員、福祉事業所関係者等との連絡調整会議を行い、安全に実施することを確認した。	認知症に対する正しい知識と対処法を学び、地域で認知症による徘徊者を見守る訓練を、現地で行い、実際に声掛けの方法を体験してもらう。	10月19日里見地区で徘徊見守り訓練を実施。消防署や警察署、日赤、民生委員、福祉事業所関係者等の協力により、地域住民を合わせて75名の参加があった。	認知症に対する正しい知識を習得してもらえるよう、徘徊者への声のかけ方を指導し、その後実地訓練として声掛けを体験してもらった。	訓練を通して、声掛けの重要性を伝えることができ、地域で見守り支え合うという共助意識を高めることができたと思う。 5ヶ年かけて全域で開催した事業であることから、今後は徘徊者と思われる人を発見した後の対応を記載した簡易なパンフレットを作成し、全域へ配布して周知を図りたいと考えている。

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況(output・input)		成果分析[outcome]	
				目標指標の内容	目標の基準値	目標達成時期	目標値	目標達成のための具体的方法	【現状】	【ギャップと対策】	①達成値・実績値	②取組・行動内容	③目標達成による成果
				(何を)	(目標設定時の状態・比較実績)	(いつまで)	(どの水準までとする・達成後の状態)	(具体的取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)	(目標の達成状況・ 現在の状態)	(目標達成のために 行った取組・行動)	(目標の達成による効果、 目標達成できなかった事由)
業務改善取組①	大森地域課	お客様への丁寧な対応と、各種相談等お客様の要求に対する適切な対応	B	お客様の満足度の向上を図る。	これまでも丁寧な対応を心がけ実践しているが、更に充実させたい。	通年	マナーに気を付け、相手の要求に適切に対処し、市民から信頼される職員となる。	・職員同士の協力体制及び情報共有の充実を図る。 ・職員の身だしなみ等、お客様に不快感を起させない身だしなみ等、求客対応時のマナーに注意する。 ・各種研修会等積極的に参加し、資質向上を図る。	7/22の大雨災害後は、仮証明発行を求めている方、補助事業の相談に来られる方、補助事業の申請に来られる方などが大勢来庁した。それらの方々に対してはおおむね丁寧な対応ができていたと思うが、一部は丁寧でない対応をしてしまったこともあり、反省している。	混んでいるときの声のかけ方、分からないことを聞かれたときの対応等について再確認し、お客様の満足度の向上を図る。	繁忙期にはややぞんざいな対応もあったものの、その後は丁寧な対応をしており、目標はほぼ達成できている。	・職員同士の協力体制及び情報の共有を図る。 ・身だしなみに注意し、お客様に不快感を与えないようにした。 ・こちらで分からないことは直接本庁担当へ電話してもらい、こちらが間に入ることによって生じる連絡ミスや間違いを無くすようにした。	自分の担当業務以外の用事で来庁されたお客様にも、それぞれ対応することができた。
重点取組①	大森地域課	芝桜の再生を図る	A	昨年秋に芝桜がネキリムシの食害に遭い、全体の半分近くが開花できない可能性がある。今後の被害を食い止めるとともに、芝桜の再生を目指す。	現在、半分近くの苗が被害に遭っている。	年度末	・枯れた苗を除去し、補植する。 ・ネキリムシ被害を防止する。	・4/22に補植イベントを実施した。 ・その後は、適宜殺虫剤を散布したほか、補植と除草作業に力を入れている。 ・芝桜の苗を譲ってくれる方を募集する。 ・ネキリムシ対策として適期に殺虫剤を散布する。	・補植を継続するが、ポット苗の補植に加え、株分けしての補植も実施する。 ・除草作業を継続する。	ネキリムシ被害は食い止めることができたと思われる。芝桜の補植は大雨の影響もあり、最後は一部追いつかなかった。	・観光協会役員から出された意見を次のとおり実行した。 ①ネキリムシにやられ、被害が大きいことをマスコミを通じ公表した。 ②補植そのものをイベントにした。 ③家で栽培している芝桜を譲ってくれる方を募った。	芝桜の補植を多めに行った。元のようにはまだ至らないが、今後も補植作業を継続する必要がある。	
重点取組②	大森地域課	グリーンツーリズム事業及び都市農村交流事業を通じて、地域の元気づくり及び大森の魅力発信を図る。	A	グリーンツーリズム推進協議会による農作業体験受入事業の推進	H25受入実績:548人 H26受入実績:548人 H27受入実績:851人 H28受入実績:849人	年度末	・農作業体験受入人数で、過去2年の実績並みの850人を目指す。	・横手市グリーンツーリズム連絡協議会及び農業振興課との連携強化を図るとともに、大仙市のあぐり耕房とも連絡を取りながら、受入の拡大を図ります。	①9月末で、中学生の修学旅行4校229人のほか、秋田大学留学生、国際教養大学の留学生、カワイ体育教室等で214人、計443人の受入れがあった。	①今後も関連団体との連携をとりながら、訪れた方にいい印象をもって帰っていただけるよう取組む。	①最終的には、中学校の修学旅行9校230人のほか、秋田大学留学生、国際教養大学留学生、カワイ体育教室等で368人、計598人の受入れがあった。	①横手市グリーンツーリズム連絡協議会や農業振興課とも連携しながら、大仙市のあぐり耕房とも引き続き連携している。	①修学旅行の受入れは、大仙市のあぐり耕房からの受入れが前年度に比較し少なかったことにより減っているが、それ以外の受入れはほぼ前年度並みである。今後は、他地域も含め、新たな会員(受入れ農家)の動員に力を入れる必要があると思われる。
重点取組③	大森地域課	大森リゾート村整備構想の具現化	A	大森リゾート村魅力アップのための整備計画を策定する。	テニスコート拡充や子どもの広場改修などの構想はあるが、具体化されていない。	年度末	・整備に関する計画図を作成し、概算事業費を算定し、実現に向けて関係課と協議を進める。	・地域づくり協議会や施設利用団体等との整備協議、活用できる補助金等の調査を行う。	・テニスコート利用団体と協議、体協大森支部や地区会議議長と調整し、市への要望書と市議会へ陳情書を提出し、採択となった。	・片内関係課と構想実現に向けた今後の進め方や方策、具体的な取組み等を協議する。	・整備に関する計画図の作成と事業費概算を算定し、関係課との協議に向けて、テニス団体とツツサル団体へ整備後の利用見込みを依頼した。	・テニスコート利用者、指導者、団体へアンケート調査を実施し、調査結果を基にテニス団体と協議のうえ、具体的な整備内容を検討した。	・関係課との協議には、整備後の利用見込みが必要と判断し、数値をまとめてから協議することとした。 また、活用できそうな補助金、民間の助成金を調査し、資料を収集した。
重点取組④	大森地域課	安全で安心な暮らしができる地域づくり	B	①消防団及び関係機関と連携し火災の抑制を目指す。 ②交通事故の抑制と交通事故ゼロ日の継続	①本年は4月6日に死者1名、けが人2名を出す火災が発生しているが、今後の無火災を目指す。 ②交通死亡事故ゼロ日の継続(4/13現在、2,710日)(1/28に3,000日の予定)	①年度末 ②年度末	①4月7日以降は火災ゼロ ②交通死亡事故ゼロ	①消防団や火災予防防人会和連携し、火災予防の啓蒙に努めます。 ②大森地区交通安全対策協議会や交通安全母の会などの団体と連携し、交通安全の啓蒙に努めます。	①6月4日に坂部地区で土砂災害対応訓練を実施した。 ・8月に予定していた防災訓練(駆け付け訓練)は大雨災害の影響で中止した。 ②6月19日に交通安全対策協議会を実施した。 ・春、秋の全国交通安全運動期間中に交通指導員が街宣活動を実施した。 ・9月敬老会時に交通安全母の会が、交通安全を呼びかけたほか世帯訪問事業の告知をした。	①11月の「秋の火災予防週間」時に消防団がパレードを実施する。 ②交通安全母の会が、高齢者への世帯訪問を行い、交通安全の呼びかけ、啓発グッズの配布を行う予定。	①火災予防に関しては、4/2春の火災予防運動パレード、4/22河川敷原野焼却、11/5秋の火災予防運動パレード等を実施した。また、11/26赤十字みんなの防災講座・吹き出し訓練を実施した。 ②1月28日に、交通死亡事故ゼロ3,000日を達成し、3/9現在も継続している。	①関係機関との連携がうまくいっている状況である。また、種々の訓練時には事前に消防幹部会を開催し、意思の疎通を図っている。 ②10～11月にかけて、交通安全母の会が高齢者宅130世帯を訪問し、交通安全の呼びかけ、啓発グッズを配布した。また、年末の交通安全運動として、地域内へのチラシ回覧や交通指導員による巡回広報を実施した。	①今後も関係機関との良好な関係を維持し、防災意識の高揚にも努め、安全安心なまちづくりを進める。 ②交通死亡事故ゼロ3,000日達成の表彰式において、大森地域の交通安全関係者が、記録の更新を目指して、積極的に活動を実施していくことを誓い合いました。
重点取組⑤	大森地域課	地域維持管理業務の迅速な対応と作業の効率化	B	①道路、河川、公園等の危険箇所の早期発見・早期改善及び災害時の速やかな復旧作業の実施 ②住民目線に立ったきめ細かな除雪の実施	①パトロールの強化による危険箇所、老朽箇所の確認 ②オペレーターの確認、地域特性を把握した除雪	①年度末 ②年度末	①修繕箇所、危険箇所の早期発見、早期修繕による事故防止(一時復旧、修繕、完全復旧) ②無事故、無遅延の達成	①現場確認と速やかな対応の徹底 ・住民目線に対する速やかな対応 ・資材のスムーズな確保(砂利・砂のストック) ②ミーティングの励行と事故防止喚起	7/22の大雨災害では甚大な被害が発生し、その後は復旧に追われた。 ・7/23に孤立集落を解消できた。 ・補助災害復旧事業の対象にならない小規模な道路の損壊等の復旧を実施した。 ・水路・側溝等の詰まりを解消した。	○道路の損壊や側溝が詰まっている箇所はまだあるので、その復旧に引き続き取り組む。 ○冬期間の除雪への影響を最小限にし、冬期間の円滑な道路交通の確保を図る。 ※災害時の基本的な対応については、普段から確認しておく必要があると感じた。	①大雨災害での小規模な道路の損壊や水路・側溝の詰まりを解消した。 ②大雪ではあったが、きめ細かな道路除雪が実施できた。しかし、事故が4件発生してしまっした。	①冬期間の除雪に支障ある被災箇所を優先的に復旧した。 ②12月ころは明け方に雪が降る日が多く、日中の除雪となつたが、おおむねスムーズに実施できた。 また、事故防止の呼びかけを頻繁に行なったが、結果的に4件の事故が発生してしまっした。	①大雨災害での被災箇所はおおむね復旧できているが、未だ手を付けていない箇所もある。 次年度に復旧する必要がある。 ②除雪そのものは満足できる水準で実施できたが、事故が4件発生したのは残念だ。 除雪作業は慎重に行ってもらいたい。また作業時のヘルメット、シートベルトの着用をさらに徹底したい。
重点取組⑥	大森地域課	さくら荘の安定的な運営	A	なかなか売上高が伸びないが、費用の削減にもこれまで以上に取組み、営業利益の黒字を目指す。	①前年度の営業利益987千円(4/13現在見込)	年度末	・資本的収支を除いた営業収支が黒字であることを目標とする。	・季節毎の新たなプランを企画し、インターネットやフリーペーパー等の媒体を使いプランの周知に努めます。 また、あちこちの道の駅にパンフレットを置くようにする。	・春待ちプランや平日個室プランは継続して実施している。 ※5月に調理師が1人辞めたため、日中のレストラン営業ができない状況が続いており、なかなか売上高が伸びない状況である。	・(さくら荘が市施設として残ることを前提に)調理師の募集を継続して行う。 ・*新年会プラン等を充実させ、お客様に喜んでいただけることを目指す。	・大雨の影響もあるが前年度に比べ約2千万円の売上減である。	・集客のために種々のプランを実施している。平日個室プラン(2,000円/1人)は土日祝日にも拡大し、好評を得ている。また、季節毎のプランも春待ちプラン、春プラン、秋彩プランや忘年会プランを実施している。	・調理師の募集を行っているが応募者がいない。このためレストランの営業ができないため、売り上げが伸びない状況である。

■平成29年度

まちづくり推進部 大森市民サービス課

組織目標管理シート

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容					目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況(output・input)		成果分析[outcome]
				目標指標の内容	目標の基準値	目標達成時期	目標値	目標達成のための具体的方法	【現 状】	【ギャップと対策】	①達成値・実績値	②取組・行動内容	③目標達成による成果
				(何を)	(目標設定時の状態・比較実績)	(いつまでに)	(どの水準までどうする・達成後の状態)	(具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)	(目標の達成状況・ 現在の状態)	(目標達成のために 行った取組・行動)	(目標の達成による効果、 目標達成できなかった事由)
業務改善取組①	大森市民サービス課	住民に信頼される窓口対応の確立	B	・明るく元気なあいさつで、わかりやすい窓口対応をする。 ・各係、担当ごとに連携した窓口対応	年度末	・混雑時のイライラの解消をします。 ・地域住民に理解してもらえらる窓口対応に努めます。	・お客様への声かけを励行します。 ・丁寧な聞き取りによる親切な対応をします。 ・専門用語を使用しない分かりやすい説明をします。 ・全員で問題点を話し合い、業務マニュアルを見直しながら課題を共有します。 ・研修参加による個々のスキルアップを図ります。	・研修会に積極的に参加させるとともに、新規採用職員には業務対応マニュアル作成を指示しスキルアップの向上に努めた。 ・来庁者に対し、積極的な声掛けを行い、来庁者の要望に迅速に対応するように努めた。 ・研修会、会議等に積極的に参加し、個々のスキルアップの向上に引き続き努める。	・研修会、会議等の内容を回覧板等で周知し、情報共有を行い、また来庁者に対する声掛けを取り組んだ。 ・申告相談時、大雨災害による雑損控除対象者を長く待たせないよう、申告相談時間が長くないようにした。	・研修会、会議等の内容を回覧板等で周知し、情報共有を行い、また来庁者に対する声掛けを取り組んだ。 ・申告相談時、大雨災害による雑損控除対象者を長く待たせないよう、申告相談時間が長くないようにした。	・疑問点は、係内、関係職員、本庁に確認し、確実に、迅速に解決した。 ・大雨災害による雑損控除を対象にした予約日を設定した。	・市民に対し、課の職員が連携して対応することにより、来庁者等の待ち時間を少なくすることができた。 ・大雨災害による雑損控除対象者の予約日を設定したことにより、申告相談日の混雑が緩和された。	
重点取組①	大森市民サービス課	子宮がん・乳がん検診の受診率向上	B	子宮がん検診受診率60%、乳がん検診受診率70%を目標にする(申込み者数に対する受診率)。 28年度受診率は子宮がん検診56%、乳がん検診68%だった。前年度比では乳がん検診受診率は維持できたが、子宮がん検診受診率は2%低下。	12月末	子宮がん検診受診率60%、乳がん検診受診率70%	・電話によるコールコールを子宮がん検診申込み者で20～30歳台、乳がん検診申込み者で40歳台に実施する。 ・防災無線で検診受診の呼びかけをする。 ・乳児健診等各種検診の際に母親に子宮がん検診受診を勧奨する。	・電話による受診勧奨を実施するための名簿を作成した。 ・4、7か月児健診の際に母親にパンフレットを用いて子宮がん検診を対象者全員に勧奨した。	・電話による受診勧奨を健康推進係が地区分担して実施。不在の場合は家族に勧奨したり再度かけなおすなどに対応する。 ・防災無線で受診の呼びかけをする。 ・4、7か月児健診の際に母親に来年度に向けた子宮がん検診の呼びかけを行う。	・電話による受診勧奨を健康推進係が地区分担して実施。不在の場合は家族に勧奨したり再度かけなおすなど157件に電話勧奨をした。 ・防災無線で受診の呼びかけをした。 ・4、7か月児健診の際に母親に来年度に向けた子宮がん検診の呼びかけを行った。	・電話による受診勧奨を健康推進係が地区分担して実施。不在の場合は家族に勧奨したり再度かけなおすなど157件に電話勧奨をした。 ・防災無線で受診の呼びかけをした。 ・4、7か月児健診の際に母親に来年度に向けた子宮がん検診の呼びかけを行った。	個別に電話等で受診勧奨した結果、昨年度より子宮がん検診、乳がん検診とも受診率が向上した。	
重点取組②	大森市民サービス課	高齢者一人暮らし世帯等の訪問及び見守り世帯の把握と支援の継続	B	・高齢者一人暮らし世帯、高齢者のみの世帯を民生委員、保健師、福祉担当の3者で訪問の継続を行う。 ・見守り世帯のリストを情報更新しながら、支援策を継続して探る。 ・高齢者一人暮らし世帯の訪問を実施する。 ・地域民生委員や社協等と情報共有を図りながら見守り世帯の状況を把握する。	年度末	・高齢者一人暮らしの全世帯訪問を実施します。 ・見守り世帯の状況が深刻化、複雑化する前に相談に応じ、不安解消を図ります。 ・内容に応じて関係機関への紹介等支援策を講じます。	・訪問時期を11月として、雷寄せ支援等高齢福祉事業利用へとつなげていきます。 ・民生委員による地域活動を通して住民動向を把握し、問題の早期発見につなげます。 ・見守りが必要との情報を得た場合は、随時保健師と福祉関係者が連携し巡回を行いサポートします。	・11月の訪問に向け民生児童委員及び保健師からの情報を記録するなど対象者名簿の管理を行った。	・11月に民生児童委員、保健師、福祉係の3人で訪問を実施し、不安解消や支援等につなげていく。	133人について訪問を実施した。	・11月13日～21日(6日間)の日程で民生児童委員、保健師、福祉係の3人体制で133人について訪問を実施し、健康状態、心配事等について聞き取りを行った。健康状態に関しては保健師が直接指導、又は医療機関受診を勧める。その他心配事等については、関係機関へ支援を依頼する。	一人暮らしや高齢者のみ世帯の健康状態について、保健師からの指導等により安心が得られた。その他の心配事の相談なども話す機会を与えることができた。	
重点取組③	大森市民サービス課	保育所を拠点として家庭や地域と連携し交流を深め、活動の幅を広げる。	B	・地域住民との交流の充実を図る。 ・地域行事への積極的参加。	年度末	・地域の行事に積極的に参加し交流を深め、地域住民と交流しやすい環境を構築します。 ・職員一人ひとりが地域の伝統行事に対する理解を深め伝統行事伝承の一助になるよう努めます。 ・老人福祉施設へ、園の行事などへの参加の呼びかけをします。 ・地域の方々多く接し、地域の保育園と通って園児を通して地域住民へ明るい話題を提供します。	・施設訪問は3施設、敬老会などに参加した。また保育所行事への参加には地域住民に回覧で呼びかけた。 ・大森太鼓30周年記念イベントに参加し、地域の方々へひまわり太鼓を披露した。 ・地域の公共施設 図書館を訪問し、地域の方たちと接するとともに、絵本に親しむことが出来た。	・地域住民との交流として「健康の駅」を6月に予定したが感染症が流行し参加できなかった。 ・10月の「健康の駅」に参加し、地域との交流を図る。 ・其々の伝統行事を伝えていく。 ・図書館見学を11月にも行い、絵本を読んだり、貸し出しの経験をする。	・地域との交流 ・健康の駅、老人施設慰問 ・図書館見学(2回) ・小学校との交流 ・マラソン大会 ・学習発表会 予行見学 ・伝統行事の参加 ・ひまわり太鼓披露 ・梵天楽しみ会	・地域交流の計画を職員間で話し合い連携をとりあっていた。 ・小学校との連携、交流が増えたことで就学の不安を少し解消できる効果があった。 ・伝統行事は毎年繰り返されることでつながるので、職員間で引き継ぎ、取り組みを続けている。	・老人施設の訪問、健康の駅への参加で地域のお年寄りとの交流が楽しみで待っているとの報告を受け、いい交流ができた。 ・図書館見学、移動図書館などで絵本に触れる機会を増やしたことで保護者にも絵本の楽しさや子どもとの触れ合いが多くとれるようになった。 ・小学校との交流が増え、話し合いの場が多くなったので、就学についての取り組みがスムーズになった。		

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況[output・input]		成果分析[outcome]	
				目標指標の内容	目標の基準値	目標達成時期	目標値	目標達成のための具体的方法	【現 状】	【ギャップと対策】	①達成値・実績値	②取組・行動内容	③目標達成による成果
				(何を)	(目標設定時の状態・比較実績)	(いつまで)	(どの水準までどうする・達成後の状態)	(具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)	(目標の達成状況・ 現在の状態)	(目標達成のために 行った取組・行動)	(目標の達成による効果、 目標達成できなかった事由)
業務改善取組①	十文字地域課	風通しの良い職場環境とお客様への適切な対応	B	・3係の連携 ・職員の意識	・職員の減少により係以外の業務への対応が必要 ・お客様の要望の多様化	年度末まで	・職員が問題意識を持ちながら係を超え協力して業務あたる。 ・お客様の要望に迅速かつ適切に対応できる。	・課、係毎の定期的な打合せを実施し、業務とスケジュールの共有を図った。 ・机の配置換えを行い、課の一体感を醸成した。 ・業務日報の記載により業務内容と進捗状況が確認できるようにした。	・行事、イベント等について係を超えて対応し、協力体制の構築に努めた。 ・起案書、報告書を係員全員に供覧することにより情報共有を図る。 ・相談・音信等処理業の活用により問題、課題の共有を図る。	・課の抱えている問題等について情報を共有し、係を超えて業務にあたった。 ・机の配置換えを行い課の一体感を醸成とお互いの業務の見える化を図った。 ・電話、窓口対応が迅速でスムーズな対応ができるようになってきた。	・課、係の定期的なミーティングにより業務内容とスケジュールの共有を図った。 ・机の配置換えを行い課の一体感を醸成とお互いの業務の見える化を図った。 ・業務日報の記載により業務内容と進捗状況の把握に努めた。 ・問題処理業の作成と供覧により、課の問題、課題の共有につとめた。	・3課が一つになって3年目であるが、少しずつ一体感が生まれ、係を超えて業務にあたる雰囲気も醸成された。 ・お互いの業務を理解し、自分の担当以外のお客様にも積極的に、迅速に対応する体制が構築できた。	
重点取組①	十文字地域課	地域局庁舎建設	A	十文字庁舎周辺の整備計画のランドデザイン	小学校統合後の跡地を含めた十文字庁舎周辺整備計画と、庁舎建築場所が未定	30年1月	・庁舎周辺整備計画の策定 ・庁舎建設位置と付帯設備の決定	・経営企画課との連携 ・計画策定委員会の設置、開催	・総合政策部(経営企画課、財産経営課、財政課)と連携して協議を進めている。	・引き続き総合政策部と連携し、議会の公共施設の在り方に関する調査特別委員会の報告書を踏まえ、庁舎周辺エリア全体をトータル的に整備する計画を策定する。	・庁舎周辺整備計画については経営企画課で協議を進めている。 ・庁舎建設については多目的総合施設として整備することとし、30年度に設計等の予算要求を行った。	・横手市財産経営推進計画(FM計画)及び議会公共施設の在り方に関する調査特別委員会の報告に基づき、地域局内、関係部局との協議を重ねた。	・庁舎周辺整備計画(ランドデザイン)については30年秋ごろを目途に策定が完了する予定である。 ・10月10日に完成するスケジュールで進行していく
重点取組②	十文字地域課	地域の安全確保	A	・交通死亡事故ゼロ 1,000日達成(H29.2.18) ・交通死亡事故ゼロ日数 ・年間火災発生件数 ・過去5年の年間火災発生件数の平均 5.3件 (H24 4件、H25 6件、H26 3件、H27 7件、H28 4件)	・交通安全事故ゼロ 1,300日達成(H29.12.15) ・火災発生件数 5件以内	年度末	・交通安全団体等と連携し、交通安全思想の普及を図る。 ・交通安全設備の確認 ・消防団、消防署と連携し、チラシ配布、警戒巡回を行い防火思想の普及を図る。 ・防火設備等の点検を行い有事の際に備える。	・交通安全関係団体と連携し、交通安全旬間を中心に各種イベント、啓発活動を行い、交通安全事故ゼロを継続している。 ・消防団、消防署、火災予防組合と連携し防火思想の普及を図っているが、これまで6件の火災が発生。	・引き続き関係団体と連携し、イベント、チラシ配布等を通じて冬期間の交通安全防止を図る。 ・今後、暖房器具の使用時期となるので引き続き防火思想の普及を図り、火災予防に努めるとともに、消防設備の点検、防火水槽・消火栓の除雪を行うなど消防水利の確保を行う。	・交通安全協会等交通安全団体との連携し、各種の啓発活動を行うとともに、近隣で大きな事故があった場合には、チラシ等を配布して交通安全防止に努めた。 ・火災発生件数6件で目標を下回っているが、29年9月以降の発生はない。 ・消防団、火災予防組合等と連携し、防火思想の普及に努めるとともに、有事に備え、消防水利の確保に努めた。	・各団体の協力のもと、子供から高齢者まで、交通安全意識の普及を図ることができ、死亡事故の発生を防ぐことができた。 ・落雷や発火原因不明による火災の発生もあり、目標を達成できなかったが、負傷者がいなかったのは幸いである。		
重点取組③	十文字地域課	市民協働による地域づくりの推進	A	・西地区交流センターの運営 ・センター化初年度のため支援が必要 ・十文字、三重公民館の交流センター化に向けた取り組み ・新たな共助組織の育成	・センター化初年度のため支援が必要 ・準備会等の発足に至っていない。 ・現状1団体のみ	年度末まで	・交流センターの自主的な運営 ・準備会等の組織づくり ・新たな地域共助組織の掘りおこし	・運営協議会およびセンター長との協議、調整の実施と各種事業の支援 ・センター化に向けた、懸案事項の洗い出しおよび準備会等の入道方法の検討。 ・地域づくり協議会や各公民館等を通じて必要性を理解いただき、具体的な協議をする。	・西地区交流センターの運営全般に支援、アドバイスを行い、順調に事業が進捗している。 ・十文字、三重地区公民館のセンター化に向け課内の検討を行い今後の方向性を探った。 ・新たな共助組織の育成に対する課内の検討を行い、今後の方針を模索した。	・西地区交流センターの運営支援については今後も継続していく。 ・地域づくり支援の次年度以降の方針が決まり次第、地域づくり支援課と協力して説明会等を開催していく。 ・冬期間の除雪等の助け合いの状況を調査し、共助の方向性を探る。	・西地区交流センターについては、その企画、事業実施のすべてについて参画し、運営支援を行った。 ・十文字、三重地区のセンター化に向けて、地域づくり支援課と協力し、地区会議、公民館関係者を対象に説明会等を実施した。 ・新たな共助組織の掘りおこしを行うために、冬期間の除雪等の共助状況の調査を行うとともに、地域づくり支援課と協力して、地区会議を対象に説明会を実施した。	・3年の試行期間を経てのセンター化であり船長をはじめ地域住民の意識の高さが順調な運営につながっている。 ・十文字地区は、市街地と農村部の意識の違いが大きく、新たな方策を考えていかねばならない。三重地区については公民館関係者の意識づけにつながった。 ・冬期間、地域内に小さい単位の共助が存在することが確認できた。今後、新たな地域づくりの方針のもと、小さい単位を大きく育成したり、横のつながりをもたせ組織化につなげていく。	
重点取組④	十文字地域課	安全・安心して暮らせる地域環境の確保	B	・道路、公園施設等の適切な維持管理 ・市営住宅の適切な維持管理 ・市営住宅の老朽化	【平成29年度】 ・道路パトロール年12回 ・道路瑕疵事故 2件 ・直営作業事故 0件	年度末	・道路、公園施設の安全パトロールを強化し、危険、修繕箇所を早期に見つけて迅速な対応を行う。 ・作業事故をなくするため作業前の喚起とヤリハット体験の共有を行う ・住宅管理人との定期的な打合せを行い、設備の不具合等には迅速に対応する。	・月2回、係を超えた班編成により道路パトロールを行う体制を新たに構築し、道路及び交通安全施設の確認を行い、危険箇所等の早期発見と修繕を行った。(57カ所) ・住宅管理人との連絡を密にし、不具合情報の把握を行うとともに、入居者からの不具合申し出に迅速に対応し、苦情は無い。	・現在のパトロール体制に加え、降雪期には除雪作業員が除雪パトロールの際不具合を発見した場合には、仮補修を行い、安全確保体制の強化を図る。 ・作業前の声掛けと終了後にその日の作業状況とヤリハット体験の確認を行う。 ・引き続き、住宅管理人との連絡を密にし、不具合箇所を早期把握と迅速な対応を行う。	・従来は、作業員によるパトロールに加え、係を超えた班編成による月2回のパトロール体制を構築し、危険箇所等の早期発見に努め修繕等早期対応に努めた。 ・作業前の声掛けや、他地域での事故状況の共有、ヤリハット体験の確認を行い、事故防止に努めた。 ・住宅管理人との連絡を密にして、不具合情報の早期把握を行うとともに、入居者からの不具合情報については、迅速に対応した。	・道路パトロールを強化したことにより、舗装や交通安全設備の不具合を早期に見つけ迅速な対応を行うことにより、瑕疵事故の発生を未然に防ぐことができた。 ・作業員への情報提供や注意喚起を十分行ったが、除雪作業中の吹雪による吹溜りの回避を行う際、事故が発生してしまっった。 ・市営住宅の入居者との信頼関係を構築し、古くても、快適に居住できる環境を提供できた。		

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況(output・input)		成果分析[outcome]	
				目標指標の内容	目標の基準値	目標達成時期	目標値	目標達成のための具体的方法	【現状】	【ギャップと対策】	①達成値・実績値	②取組・行動内容	③目標達成による成果
				(何を)	(目標設定時の状態・比較実績)	(いつまでに)	(どの水準までどうする・達成後の状態)	(具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)	(目標の達成状況・ 現在の状態)	(目標達成のために 行った取組・行動)	(目標の達成による効果、 目標達成できなかった事由)
業務改善取組①	十文字市民サービス課	市民に親しまれ、信頼される窓口対応の確立	B	窓口業務全般	全員が複数の業務に対応できるようにします。	年度末	・昼休み当番制を実施できるようにします。 ・休暇の取得をし易くし、健康管理に努めます。	・主担当業務以外の窓口業務にも積極的に対応し、スキルアップが図られた。 ・各担当業務のマニュアルを作成し、共有フォルダに整理した。 ・Garoonのスケジュール機能を利用して共有を図ると共に、朝の打合せ等で再確認した。 ・個々のスキルアップを継続し、各業務のマニュアルを自分のものにする。 ・窓口専門員の配置(本庁舎では配置済み)を検討する。	【現状】 ・職員個々のスキルアップやマニュアルの整備を実施したが、来庁者の多さ、広範囲な窓口業務により、昼休み当番制の完全実施は容易ではない。 【対策】 ・最低週一回は完全な昼休みが可能となるよう、一人ずつ交代で昼休み(別室)で食事をする、外出する等が出来るようにする。 ・個々のスキルアップを継続し、各業務のマニュアルを自分のものにする。 ・窓口専門員の配置(本庁舎では配置済み)を検討する。	①達成値・実績値 (目標の達成状況・現在の状態) ・日常的な業務については、主担当以外の職員でも対応出来るようになった。 ・10～11月の2カ月間は、最低週一回は完全な昼休みが可能となるよう、一人ずつ交代で昼休み(別室)で食事をする、外出する等が出来るようになった。 ・特別(夏季・冬季)休暇の完全取得を実現した。	②取組・行動内容 (目標達成のために行った取組・行動) ・主担当業務以外の窓口業務にも積極的に対応し、職員個々のスキルアップを図った。 ・各担当業務のマニュアルを作成し、共有フォルダに整理・活用した。 ・Garoonのスケジュール機能を利用して共有を図ると共に、朝の打合せ等で再確認した。 ・窓口専門員の配置(本庁舎では配置済み)について、課内での検討を行った。 ・窓口が他の季節より混雑しない夏季に、特別休暇を重点的に取得した。	③目標達成による成果 (目標の達成による効果、目標達成できなかった事由) ・日常的な業務はどの職員でも対応出来るようになったことにより、お客様が来庁した順番に事務処理することが出来た。 ・12月以降は申告相談業務等もあり、昼休みについては以前の状況に戻っていった。 ・昼休みの時間帯もお客様に支障を来すことがないよう、職員個々の必要なスキルアップを図ると共に、窓口専門員の配置をより具体的に検討する。	
重点取組①	十文字市民サービス課	乳がん・子宮頸がん検診受診率の向上	A	乳がん(40歳～69歳)・子宮頸がん検診(20歳～69歳)の受診の徹底を図る	検診申込者 ・乳がん 510 人 ・子宮頸がん 514 人 特に若い世代の受診勧奨の強化を図る	年度末	H28年度受診率→ H29年度 乳がん 69.5%→ 71.0% 子宮頸がん 63.1%→ 65.0%	・乳幼児健診での母親への受診勧奨(リーフレット使用) ・各種会合、健康相談の場での健康教育と受診勧奨 ・コールリコールによる追加検診の受診勧奨(11/13～17日)	9月末までの受診率 乳がん検診 72.6% 子宮頸がん検診 64.7% 前年比 乳がん検診 66人増(3.1%増) 子宮頸がん検診 36人増(1.6%増) 十文字地区検診終了後、横手地区(医療機関方式、受入れ人数に制限あり)以外の地域を紹介し、乳がん4名・子宮がん3名追加受診。	乳がん40～60歳、子宮がん30～60歳の罹りやすい年代・働く世代を対象に11月～12月に追加検診を実施。うち乳がん41～45歳、子宮がん31～35歳の未受診者、80名に11/13～17日にコールリコールにて受診勧奨する。	12月末までの受診者及び受診率 乳がん検診 607名 80.3% 子宮頸がん検診 592名 76.5% コールリコールにより追加受診期間(11/28～12/15)に乳がん28名・子宮がん37名が追加受診した。	乳がん40～60歳、子宮がん30～60歳の罹りやすい年代・働く世代を対象に11月～12月に追加検診を実施。うち乳がん41～45歳、子宮がん31～35歳の未受診者に11/13～17日にコールリコールにて受診勧奨し、乳がん28名・子宮がん37名が追加受診した。	乳幼児健診の場を利用し若い世代への受診勧奨を継続したことが受診率向上に繋がった。特に乳がんは今年度マスコミ報道の影響もあり後半の受診者の伸びが大きかったと考えられる。
重点取組②	十文字市民サービス課	要介護者リストにない要支援者の把握	A	要介護者リストの基準に該当しない世帯で支援等が必要な世帯を抽出、実態把握	高齢者と若年者(親と単身者)の世帯は要介護者リストに無い状況です。	年度末	・住基より75歳以上と50～65歳単身世帯を抽出します。 ・抽出世帯から介護、障害など支援実態状況を調査します。 ・支援等に該当しない世帯の実態把握のための訪問調査をします。	①75歳以上と50～65歳単身世帯を抽出 →238世帯 ②その中から介護関連なし及び健康診断届出無回答者世帯を抽出→15世帯	・15世帯を区域割り、保健師や福祉担当で日程調整しながら個別訪問を実施する。 ・実態を把握し、必要があれば支援につなげ、定期訪問をする。	・対象者15世帯に昨年度からの継続訪問10世帯、経過観察2世帯をあわせて27世帯を訪問し下記のおり実態把握、サービスへの支援ができた。 介護へつなぐ1世帯 経過観察世帯5世帯 周囲とのつながりがあり問題なし18世帯	保健師3名と保健福祉係2名で2名1組となり訪問した。対象者は訪問に驚いた様子だったが「健診」に伺ったことを話すに快く応じてくれた。昔あつた家は、あたりまえだが高齢者が自中1人いる世帯が多く、耳が遠いのかテレビを大音量で見ている。ドクファン音も大声で声をかけてもなかなか気づいてもらえないことだった。来客があっても出ないよう家族に言われているのかと思うところもあつた。	今年も昨年から続いての訪問だった。昨年と同様に高齢者は医療機関とつながっており、元気に過ごしている。一人での時間が長いので話し相手が見つからないか楽しんでそうにしてくれたのが嬉しかった。今回訪問で問題なしの世帯が18世帯だったが、両親と同居している50歳以上の子が体調不良等で無職という世帯が3世帯あった。両親が健在なうちは生活を維持することが出来ると思われるが、今後、健診受診の有無に限らず、他の面でも心配な要素があると感じた。また、家業を営んでいる世帯の受診に対する意識が低いこともわかつた。	
重点取組③	十文字市民サービス課	子ども達が心身共に健康で楽しく過ごせる保育所	B	子どもの発達を考慮した保育内容 ・保育の専門性を高め保護者との信頼関係の構築 ・幼小との連携と地域交流	・保育内容と所内研修の充実 ・研修会への参加と保護者対応 ・幼小との連携と地域交流	年度末	・子どもの情報の共有を図り心身共に健康で楽しく過ごせるよう評価、反省をします ・毎月、安全教育計画に基づいて訓練を行います。 ・保育内容の確認、職員会議及び所内研修(12回) ・研修会参加(一人一年一回以上) ・保護者面談(随時) ・幼小との連携(年4回) ・地域交流(随時)	・指導計画や保育日誌の確認を行っている年齢にあった保育内容を確認している。また毎月の職員会議では子どもの情報の共有を図っており、各種訓練を行った。 ・保育士が研修会に参加し資質向上に努めている。 ・保護者面談16回→話し合いの場を設けることで家庭に寄り添う保育ができた。 ・職員間で小学校・保育所の一身体験を通し子どもの共通理解に努めた。 ・種々祭りやまごマルシェ・敬老会参加したり、計画的な施設訪問ができた。	・研修で得た知識を活かし、書類の見直しをする。 ・上期の保育内容の振り返り及び確認のため自己評価を実施する。 ・今後も必要に応じた保護者面談を行い家庭と保育所の共通理解に努める。 ・就学に向けて小学校との連携を密にしていく。 ・今後も地域や施設との交流を持ち地域交流に努める。	・職員会議、所内研修(12回) ・南教育事務所要請訪問(1回) ・横手支援校要請訪問(2回) ・保育だより(13回発行) ・クラスだより(2回発行) ・自己評価(2回) ・保護者面談(8回) ・幼保交流(4回)・幼小交流(5回) ・地域交流(9回)・施設交流(12回)	・職員会議、所内研修(12回)が、時間をしっかりと確保したことで双方の思いを伝えることができ、家庭に寄り添う保育ができた。 ・幼小の連携も確実に成果がでており、就学に関する不安を取り除く効果が大きい。感染症の情報もお互いに行った。 ・隣接する施設に計画書を届けたことで見通しを持った交流ができて良かった。	・職員間で情報を共有することで子どもへの接し方、子どもへの配慮等が統一できた。 ・研修会で得た知識を見直す時間の確保が難しい。 ・クラスだより(写真付)は保護者に大変喜ばれる。 ・必要に応じた保護者面談も行ったが、時間をしっかりと確保したことで双方の思いを伝えることができ、家庭に寄り添う保育ができた。 ・幼小の連携も確実に成果がでており、就学に関する不安を取り除く効果が大きい。感染症の情報もお互いに行った。 ・隣接する施設に計画書を届けたことで見通しを持った交流ができて良かった。	

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況(output・input)		成果分析[outcome]	
				目標指標の内容	目標の基準値	目標達成時期	目標値	目標達成のための具体的方法	【現状】	【ギャップと対策】	①達成度・実績値	②取組・行動内容	③目標達成による成果
				(何を)	(目標設定時の状態・比較実績)	(いつまでに)	(どの水準までどうする・達成後の状態)	(具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	上期(10月～3月)の取組実績 (具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)	(目標の達成状況・ 現在の状態)	(目標達成のために 行った取組・行動)	(目標の達成による効果、 目標達成できなかった事由)
業務改善取組①	山内地域課	報連相による円滑な業務の遂行	A	・業務担当の主副担当及び課員同士の業務に取り組み意識 ・業務担当の主副担当は決定されている。 ・3係間の情報共有の機会が少ない。	年度末まで	・課員、係員同士の業務内容を理解し、互いに協力し合えるしくみを作ります。 ・係間及び3係長ミーティングを最低週1回実施します。	・スケジュール管理や業務日報の記入を徹底します。 ・係間及び3係長ミーティングを最低週1回実施します。 ・週1回課長係長会議を開催し、その情報を係長から課員へ周知した。	・スケジュール管理やイベント情報、各施設利用状況等の情報を共有し、見える化を徹底した。 ・前半業務の達成状況を振り返り、見直しを含めて、スムーズに業務の推進ができるようミーティングを徹底する。	・誰が何をしているかをより一層、見える化を図り、チームとして仕事ができる環境を整える。 ・前業務の達成状況を振り返り、見直しを含めて、スムーズに業務の推進ができるようミーティングを徹底する。	・各係間において良好なコミュニケーション、協力し合える体制が構築された。	・業務の進捗状況や課題の明確化が図られ、問題解決にむけて情報の共有及びスムーズに取り組み体制が構築された。		
重点取組①	山内地域課	交通安全・防火運動の推進	B	・管内における交通死亡事故と火災発生件数 ・平成28年7月6日交通死亡事故ゼロ1,500日達成 ・28年度 火災発生3件(27年度3件、26年度0件、25年度3件)	年度末まで	・交通安全関係団体及び地域住民と連携し交通安全教室や研修会を開催します。 ・防火無線やチラシ等で住民に注意喚起を行うとともに、注意警報情報等を適時に提供します。	・交通安全関係団体2箇所に事故防止の注意喚起看板を設置した。 ・安全のため対策が必要な箇所を調査し、関係機関に要望した。 ・原野火災予防のため、空気の乾燥する時期に防火無線で注意喚起した。 ・火災発生2件(4/20建物火災、7/6建物火災(死者1名))	・死亡事故ゼロ2000日達成後も引き続き地域局通信等で交通安全への取り組みを継続して呼びかける。 ・各冬の事故防止のため、高齢ドライバー向けの安全運転講習会を実施(1月頃)する。 ・防火無線等で、早めのライト点灯を促す。 ・いぶり小屋の火災を防ぐため、防火無線や地域局通信等で注意喚起をする。	・11月18日、交通死亡事故ゼロ2000日を達成し、なおも継続中。(年度末の日は、2,133日) ・火災発生件数3件 4/20 土測字鶴ヶ池(住居)7/6 土測字二瀬(住居)11/1 平野沢字松沢(作業小屋)	・防火無線により、さまざまなタイミングで交通安全や火災予防についての呼びかけを行った。 ・交通安全事故防止啓発のため、2カ所の観光看板を利用して、啓発および記録簿作成メッセージ看板を設置した。 ・春、秋の火災予防運動期間中、全地区をパレードし防火運動を行った。	・3件の火災発生は、全て建物火災で、1件については死亡者が出るほど甚大なものであった。火災発生は、不注意によるものが大きな要因となっていることから、空気の乾燥や雑草の時期などに限らず、チラシや防火無線などで、さらなる周知が必要である。		
重点取組②	山内地域課	地域ささえあい活動の推進	A	・H28年度防災訓練実施団体数 13地区(全地区) ・活動及び参加範囲の固定	年度末まで	・区長連絡会議を開催して、自主防災活動の重要性を引き続き説明します。 ・参加ししやすい訓練項目等を提示し、地域のささえあい活動をサポートします。	・区長連絡会議で、地域防災訓練の実施を促した。 ・防火訓練の内容の相談を受け、これまでの実施状況を示すなどとして、訓練項目の提案を行った。(9月末実施済1地区)	・区長連絡会議で、訓練内容などの実施状況を報告するとともに、参加しやすい訓練項目を具体的に提示しながら訓練実施を促す。	・13地区中10地区で防災活動を実施(実施率77%) ・要援護者支援を伴う防災訓練3/4 三又地区で実施	・区長連絡会議(4回実施)の開催の都度、区長に対して、自主防災活動の継続の重要性を説明しながら、訓練等の実施を促した。 ・計画未実施の地区に対しては、幾度なく訓練内容の提案を行いながら実施を呼びかけた。 ・自主防災研修会を企画実施した。	・地域内13地区の全てに自主防災組織が設立され5年が経過しようとしているが、設立当初に比べると、活動への意識が薄くなった。 ・マンネリ化を防ぐため、新たな企画提案を行うなどして、地区役員だけでなく、多くの住民が、防災活動の重要性を認識し、自主的な活動ができるよう継続してサポートする必要がある。		
重点取組③	山内地域課	新たな地域づくりの方向性の検討	A	・地区交流センター化と地区会議の在り方 山内4地区会議	年度末まで	・地区交流センター化も見据えて検討します。 ・地域づくり協議会、4地区会議、13区長会と組織の在り方について検討します。	・地域づくり協議会、13区長会へ年度末の地域づくり協議会の解散を提示するとともに、来年度からの新たな地域づくり組織の必要性を伝えた。 ・各委員、区長との意見交換で、区長制度を基軸とした方向性を確認した。	・地域づくり支援課より示された新たな地域づくり組織の必要性を伝えた。 ・「新たな地域づくり組織(地区交流センター準備委員会)」を立ち上げるよう方向付けした。	・H30年度にて「新たな地域づくり組織検討会議」を開催し、H31年度より「新たな地域づくり組織(地区交流センター準備委員会)」を立ち上げるよう方向付けした。 ・「新たな地域づくり組織検討会議」の中心的担い手と考える山内地区長への説明を、H30年度からの方向性について理解を促すとともに、地域づくり協議会委員への協力を呼びかけた。	・山内地区長にH30年度からの方針について意識づけができた。			
重点取組④	山内地域課	共助組織の活性化	A	・モデルとなる共助組織の育成支援 ・共助組織事業収入433千円 ・地域通貨マイド発行額35千円	年度末まで	・共助組織事業収入530千円 ・地域通貨マイド発行額45千円	・共助組織の委託業務を拡大、新規委託業務を開拓します。	・南郷コミュニティセンターの年度内に完成させる。 ・雪下ろし、除雪作業をこれまでの民間から共助組織へ委託先を変更し組織の収益増につなげる。 ・三又共助組織が核となって実施している30分財団「サンプロプロジェクト」活動の支援とともに新たな活動のキッカケ作りとしてタブレット教室を開催する。	・共助組織事業収入1,109千円 ・地域通貨マイド発行額78千円	・雪下ろし、除雪等の作業委託先を山内地域の各共助組合へすることにより共助組織の収入増につなげた。 ・将来的な収入源として、山菜販売を目指す共助組合を中心と購入者側の立場を理解していただくためのタブレット教室を開催した。	・事業収入、地域通貨マイド発行額ともに目標を上回った。しかしながら、今冬は大雪のため雪の作業が多く、想定以上の実績となった。 ・来年度以降も今年度以上の活動が出来るようサポートしていく。		
重点取組⑤	山内地域課	『山内ブランド』の普及拡大と継続的な生産体制づくり	A	・H28年度販売実績 ・山内いぶりがっこ 42,300千円 ・山内いものこ 42,897千円 ・山内いんじん 1,696千円	年度末まで	・山内いぶりがっこ 販売目標 44,000千円 ・山内いものこ 販売目標 44,000千円 ・山内いんじん 販売目標 1,700千円	・イベントの開催及び広報によるPRを強化することにより、3品目の更なる知名度アップを図ります。 ・継続的な生産の確保と販路の拡大強化を図るため、生産者及び本庁各課と連携し、強固な体制の構築を目指します。	・9/17開催のいものこまつりには、県内外から約3万2千人の来場者があり、山内いものこのPRが大いに図られました。 ・山内いぶりがっこ、山内いんじんの生産並びに販売拡大を図るため、各種会議を開催し、今後の体制強化を図ることができました。	・山内いぶりがっこ、山内いんじんは、昨年より上回る見込みですが、山内いものこについては、7月の大雨など天候の影響により減収となりました。 ・生産から出荷までに関する問題点を洗い出し、本庁関係課の協力を頂きながら、より良い生産体制の確立を目指します。	・2/6開催のいぶりんピックは、テレビ、新聞に取り上げられ、今年も効果的な知名度アップが図られた。 ・山内いんじんは、県の委託事業による秋田市へ出張販売を行うなど、消費者ニーズの獲得と販売促進が図った。	・山内ブランドの拡大により、様々な取り組みにより着実な効果が表れており、どれも作れば売れる商品として定着してきている。生産者の高齢化による生産量減少が懸念されるが、引き続き生産者の利益向上につながるサポートが必要である。		
重点取組⑥	山内地域課	安全・安心な地域の道路環境づくり	B	・市民通報への対応不備に関する苦情ゼロの継続 ・管理不備による事故ゼロの継続	年度末まで	・市民通報への対応不備に関する苦情ゼロの継続を目指す。 ・管理不備による事故ゼロの継続を目指す。	・道路/パトロールを最低月1回実施し、不良箇所を早期に見えます。 ・市民要望に対する現場確認を迅速に行い、必要な対応を早期に行います。 ・市民目録によるきめ細かな除雪作業を行います。	・道路/パトロールの実施により、管理不備による事故ゼロを達成することが出来ました。 ・また、市民からの穴ぼこをはじめとした道路修繕の通報、要望に即して30箇所ありましたが、迅速に対応することができました。	・これら降雪期を迎えるにあたり、更なるパトロール強化により、道路不備箇所の早期発見及びきめ細かな除雪を行いました。 ・市民からの通報等には迅速に対応し、対応不備に対する苦情はありませんでした。	・不定期ではあったが、こまめな道路/パトロールを実施しました。 ・市民からの通報等には迅速に対応し、対応不備に対する苦情はありませんでした。	・冬期間は除雪作業員によるパトロールを実施し、実施天候の変化による吹き溜まりや穴ぼこ等の解消を行うことができた。 ・市民の要望に対しては、早期に現場確認及び対応を行い、市民満足度の向上を図った。		

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)				目標達成の状況(Output・input)		成果分析[Outcome]	
				目標指標の内容	目標の基準値	目標達成時期	目標値	目標達成のための具体的方法	【現状】		【ギャップと対策】		①達成度・実績値	②取組・行動内容	③目標達成による成果
				(何を)	(目標設定時の状態・比較実績)	(いつまで)	(どの水準までどうする・達成後の状態)	(主体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	上期(10月～9月)の取組実績 (具体的状況)	下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)	現在の達成状況・ (現在の状態)	(目標達成のために 行った取組・行動)	(目標の達成による効果・ 目標達成できなかった事由)		
業務改善 取組①	山内市民 サービス 課	市民や地域に信頼される窓口業務の 確立	B	市民サービス課業務全般	年度末まで	・係ごと、正副担当者による窓口対応 ・同様の案件でも、職員によって対応時間に差がある	・係内および係間でも業務を共有し、全員が複数の業務をこなせるようにします。 ・窓口満足度を下げずに、対応時間を短縮し標準化します。 ・正副担当職員間の情報共有を徹底し、申請書類等の整理などにより対応時間を短縮します。	・混雑時は係・職種を問わず来庁者への声掛けを助行した。 ・課内会議やコンプラ活動で、窓口対応の事例や留意点を情報共有した。 ・一部の申請書類等の保管場所の見直し、変更を行い、対応時間の短縮につながった。(書類整理実施率:50%) ・証明書交付手数料や検診受診料などの公金取扱に関して、レアケースの情報共有し、窓口対応の留意点を係・課内で話し合った。	・混雑時は係、来庁者への声掛けや丁寧な対応を実践し、課内会議等で連携や窓口対応を確認しあいます。 ・窓口業務に係る書類等の整理を徹底し、対応時間の短縮に努めます。 ・全体的な研修の報告と出席・休職等不在時の引継ぎを徹底し、担当者、係間のいっそうの情報共有を図ります。 ・税金申告期間の職員が手薄となる時期の窓口体制と対応について調整します。	・窓口業務については、係内、係間と可能な限り情報を共有し、全員が担当業務以外の業務にも対応できるように、レアケースや事務処理上のヒヤリハットについて、随時、係ごとに事例検証や情報共有を行った。 ・窓口業務での申請書類等の見直し、整理の実施により、対応時間の短縮が図られている。また、混雑時は状況を説明し理解を得ている。	・混雑時は係・職種を問わず来庁者への声掛けを助行した。 ・課内会議等を通じ、窓口対応の事例や留意点、改善方法を情報共有するとともに、レアケースや事務処理上のヒヤリハットについて、随時、係ごとに事例検証や情報共有を行った。 ・係内、係間及び地域課との連絡や情報共有がなにより、連携して対応することが習慣づけられた。 ・レアケースやヒヤリハットなどの事後検証を行うことが習慣づけられた。	・窓口対応する職員が減員となる中、声掛けや状況説明などにより、待ち時間や窓口のやりかたなどへの苦情は聞かれなかった。 ・係内、係間及び地域課との連絡や情報共有がなにより、連携して対応することが習慣づけられた。 ・レアケースやヒヤリハットなどの事後検証を行うことが習慣づけられた。			
重点取組①	山内市民 サービス 課	快適な生活環境の保持と地域の美化の 推進	B	環境保全活動 ・新分別方式の確立 ・地域クリーンアップの充実 ・ごみ不法投棄防止	年度末まで	・分別は浸透しているものごみ出し時間等のルール違反への未回収がある。 ・クリーンアップ活動、春・夏2回実施。のべ2,071人参加 ・地域環境監視員による巡回:年12回	・新分別ルールの再確認によるごみ方式の再確認/周知を行います。 ・環境美化推進員と連絡調整し、分別方式の再確認/周知を行います。 ・収集作業員との情報交換により指導の徹底を図ります。 ・地域環境監視員による巡回:年12回 ・不法投棄箇所への再確認と監視強化を図り、啓発活動に取り組みます。	・環境美化推進員研修会での要望に基づき、6/16にクリーンプラザ視察研修を実施(推進員9人参加) ・春クリーンアップ:1,064人参加。ごみ回収量1,370kg。 ・夏クリーンアップ:1,025人参加。ごみ回収量500kg。 ・不法投棄:年12回のハロール実施。 ・収集作業員からの情報により、未回収ごみチラシを作成配布、集積所に注意喚起プレートを設置。	・継続的に収集作業員との情報交換を実施します。 ・夏回収ごみの再分別の徹底及び防犯無線を使用した啓発活動。 ・不法投棄箇所の再確認と監視強化。 ・収集作業員からの情報により、未回収ごみチラシを作成配布、集積所に注意喚起プレートを設置。	・未回収ごみ:1回の収集につき6～7か所の未回収あり。 ・春クリーンアップ:1,064人参加。ごみ回収量1,370kg。 ・夏クリーンアップ:1,025人参加。ごみ回収量500kg。 ・不法投棄:年12回のハロール実施。年間17件の不法投棄あり。	・クリーンプラザのごみ回収研修実施により、ごみ処理に対する関心を高めることができている。 ・注意喚起チラシや防犯無線を活用したことにより、回収業者からごみの出し方が改善傾向にある旨の報告を受けた。 ・市民からのごみの分別区分に対する問い合わせが昨年より増え、環境美化に対する意識が高まりが感じられる。 ・ごみの未回収状況や各地区のごみ集積所の現状などがある程度把握できたことで、各地区の事情に合わせた未回収ごみの減少を検討している。				
重点取組②	山内市民 サービス 課	子育て支援ネットワーク委員会活動の 充実	A	・啓発事業(子育て講演会) ・今後の活動の方向付け	年度末まで	・子育て講演会:年1回 H29年度参加者:245人 ・山内中学校閉校後の活動の方向付けがされていない	・山内中学校閉校記念行事との連携により子育て講演会の開催に向けた準備を行い、広く地域への参加を呼び掛けます。 ・山内中学校閉校後のネットワーク委員会の開催内容について、啓発事業の開催準備と全体会議を通じて、構成団体・機関の共通理解を深め、方向付けします。	・5/25の全体会議で子育て講演会の開催内容及び今年度の活動内容を決定。 ・10/14の講演会開催に向けて、山内中との打合せ2回、山内小・中合同打ち合せ1回、企画会社、普習業者及び課内の打合せを随時開催。 ・市HP、全戸配布チラシ、ポスター、個別通知により講演会の開催を周知。	・子育て講演会: 10/14「さとう宗幸トーク&ライブ」開催 参加者数:400人 ・山内中学校閉校後は、横手南中学校から参加してもらい、これまでどおりの活動を継続することを方向付けした。	・子育て講演会: チラシの全戸配布のほか、市HP、ポスター掲示などで開催周知するとともに、協力団体を通じ参加を呼び掛けた。 ・ネットワーク活動の方向性について、全体会議を開催(5月、11月、2月)。 ・全体会議の中で今後の方向性について協議し、今後の方向付けと引き続き検討すべき事項を話し合った。	・子育て講演会: 山内中学校閉校記念行事との連携もあり、保護者や地域住民の心に残る講演会となった。 ・今後のネットワーク活動:従来の活動に加え、外国出身保護者支援事業などの新たな活動の方向性を見出すことができた。 ・啓発事業や中学校との連携については、引き続き委員会の中で協議、検討して				
重点取組③	山内市民 サービス 課	乳がん・子宮がん検診の受診率・精 検受診率の向上	B	①30歳から60歳までの乳がん・子宮がん検診の受診率 ②30歳から60歳までの乳がん・子宮がん検診の精検受診率	年度末まで	【基準値】 H29検診希望者数 ・乳がん検診:64人 ・子宮がん検診:94人 【実績値】 ①H29年度検診受診率 ・乳がん検診:76% ・子宮がん検診:61% ②H29年度精検受診者数 ・乳がん:4人中4人受診 ・子宮がん:12人中7人受診	①コール・リコールの実施 H29乳がん・子宮がん検診希望者で未受診の方へ受診勧奨(通知、電話)を行います。 ②精検未受診者に対し、2回の通知を行い、その後未受診者に対しては訪問し受診勧奨を行います。	H29.7.17-25婦人科検診を実施。 ・乳がん:200人(申込者262人)76% ・子宮がん:186人(申込者254人)73.2% ・精密検査対象者数 ・乳がん:3人、子宮がん:5人	・乳がん・子宮がん検診について、11月13日から17日に検診希望者で未受診の方へコールリコールを実施し受診勧奨します。 ・精密検査で未受診者に対し、11月と2月に受診勧奨通知をし、その後未受診者には訪問などにより受診勧奨を行います。	○受診率 ・乳がん:76% 実人数200人 (申込者262人) ・子宮がん:73% 実人数186人 (申込者254人) ○精検受診率 ・乳がん:100% 実人数3人 ・子宮がん:100% 実人数5人	○横手市全体の乳がん・子宮がん検診の受診率向上に貢献することができた。今年度実施したコールリコール事業の成果と見られ、今後の方向性を見出すことができた。 ○年齢が上がるにつれ受診率が下がるため、無料クーポン、コールリコール対象外の住民にも健診の重要性を理解してもらい、受診率向上に努めていく必要がある。				
重点取組④	山内市民 サービス 課	子育て中の家庭と妊婦の交流の場の 提供と内容の充実	B	未就園児とその家族、 妊婦のニーズに合った支援 活動	年度末まで	・「ひろば」利用者数減少によりH27年度から横手支援センターと合同開催(毎週金曜) ・H28実績:のべ423人 ・他支援センターとの交流事業:5回 ・公共施設へのセンターより掲示:12か所	・支援センターだけの掲示施設に山内郵便局を追加します。 ・保健センターでの健診支援時に支援センターで配布しPR活動を行います。 ・子育て情報サイト等に随時掲載し、当事者の場所や活動内容を広く周知します。 ・未就園児家庭を対象にアンケートを実施しニーズを把握し、事業内容に反映します。 ・他地区の支援センターとの交流会数を増やし、内容充実を図ります。	・地域版育児講座や学童の支援事業時にアンケート調査を実施し、ニーズを把握して事業計画に反映させていきます。 ・他の子育て支援センター事業の中で好評だった内容を取り入れるなど、事業内容の充実を図ります。 ・子育て情報サイト「はくはく」に積極的に活動内容を掲載して周知を図ります。 ・支援センターより掲示している全ての公共施設に持ち帰り用コーナーを	・「ひろば」開催(横手市子育て支援センターと合同開催)28回 ・「ひろば」参加者:年のべ599人 ・他支援センターとの交流事業:6回 ・公共施設へのセンターより掲示:12か所(山内郵便局を追加、南郷地区学習交流センター解体のため中断)	・新たに山内郵便局に支援センターより掲示し、全ての掲示場所に持ち帰り用を設置することで、周知が広がり問い合わせの電話を多くいただくようになった。 ・他地域からの参加者数の増加と、山内地域の出生数増加もあって、昨年見られなかった密になり楽しく語りあう姿が多く見られた。 ・地域版育児講座等開催後に、アンケート調査を行い、利用者の要望を後期の「ひろば」や「プレミアムあちやんルーム」に反映させた。(手形アート・なまじりアート) ・他地区の支援センターと連携を図り、交流事業の増加を図った。	・支援センターより掲示場所に持ち帰り用を設置したことで、周知が広がり問い合わせの電話を多くいただくようになった。 ・他地域からの参加者数の増加と、山内地域の出生数増加もあって、昨年見られなかった密になり楽しく語りあう姿が多く見られた。 ・他地域の支援センターとの交流会回数を増やしたことで、事業内容の充実と山内地域のPRができた。 ・企画した子育て講座がすべて実施できなかった。平成30年度に実施したい事業もあったので、来年度の年間計画に取り入れていきたい。				
重点取組⑤	山内市民 サービス 課	保護者が安心できる保育所運営	B	・情報発信 ・保護者支援 ・危機管理対策の徹底 ・職員の資質向上	年度末まで	・園便り:月1回、保健便り:月1回、クラス便り:年3回 ・感染症情報:メール配信 ・避難訓練、安全指導、防犯訓練、安全点検:月1回及び随時 ・園内研修:月1回及び随時 ・園外研修:月1回 ・園外研修:のべ49人(46回)	・園の取組や状況を発表し、園や子どもにも関心持って子育てを共に行えるよう努めます。 ・保育相談、個人面談を実施し、家庭との相互理解を深めより良い子ども成長を支えます。 ・感染症情報、メール配信11回 ・避難訓練、安全指導、防犯訓練の実施:安全点検:月1回及び随時 ・園内研修:月1回、園外研修への職員参加:1人1研修以上	・園便り、ほけん便り(月1回)及び随時の発行 ・クラス便り1回発行 ・個人面談の実施及び子育てアドバイスの実施:個人面談21回、連絡帳及び送迎時の子育てアドバイス随時 ・感染症情報:メール配信11回 ・避難訓練、安全指導、防犯訓練の実施:6回 ・ヒヤリハットの活用:職員会議、園内研修、朝ミーティングで周知し注意喚起した。	・園便り(月1回)、ほけん便り(月1回)及び随時の発行 ・クラス便り1回発行 ・個人面談の実施 ・感染症情報:メール配信11回 ・避難訓練、安全指導、防犯訓練の実施:6回 ・ヒヤリハットの活用及び事故、怪我等の発生(職員同士の情報共有徹底) ・園内研修の充実 ・資質向上のための園外研修への派遣	・園より、保健だより、メール配信を通じて、園の取組や状況を情報提供した。 ・育児、保育相談、個人面談を随時実施し、保護者と園双方の意見の共通理解を図った。 ・危機管理マニュアルを見直し、ヒヤリハットの活用と外部講師を招いての研修会4回実施(安全点検12回実施)。 ・危機管理マニュアル見直しの上、新規書類を職員全員に配布し共有理解 ・園内研修:12回、園外研修派遣:全員2回以上(のべ4回) ・職員会議12回、他随時連絡会開催 ・ヒヤリハットの活用	・年度当初に医師の診察を受ける事業1件あったが、危機管理マニュアルの見直しや、所内研修でヒヤリハットを含めた見直しを徹底した成果もあり、5月以降はヒヤリハットを越える大きな事故の発生はなかった。 ・名前で登録レベルの流行が見られた季節性インフルエンザについても、一定程度の発生に止めることができた。 ・外部研修や所内研修の機会を確保することで、平成30年度に本格化する新しい保育指針やキャリアアップ研修に対応した、職員の資質向上につながった。				

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況(output・input)		成果分析[outcome]	
				目標指標の内容	目標の基準値	目標達成時期	目標値	目標達成のための具体的方法	【現 状】	【ギャップと対策】	①達成値・実績値	②取組・行動内容	③目標達成による成果
				(何を)	(目標設定時の状態・比較実績)	(いつまで)	(どの水準までどうする・達成後の状態)	(具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)	(目標の達成状況・現在の状態)	(目標達成のために 行った取組・行動)	(目標の達成による効果、 目標達成できなかった事由)
業務改善取組①	大雄地域課	業務を効率的に行う意識改革	A	業務改善を行い時間外労働の削減をします。	H28年度 時間外勤務時間数 1,892時間	年度末	時間外勤務時間数 1,700時間 (前年度時間外勤務時間数の10%削減)	<ul style="list-style-type: none"> 課内担当別業務年間スケジュール表を作成し、業務進捗状況を毎週開催している係打合せや課長、係長会議でチェックし、遅れている業務に対して支援体制を取りました。 職員から業務改善案を募集し、課内で検討し4つの改善案を実施しました。 職員が1件以上の業務改善案を提出し課内で検討を行いPDCA活動を実施します。 	<ul style="list-style-type: none"> 課内担当別業務年間スケジュール表を作成し、業務進捗状況を毎週開催している係打合せや課長、係長会議でチェックし、遅れている業務に対して支援体制を取りました。 毎週水曜日、金曜日のノー残業デーを徹底します。 毎週1回の課内、係内の打合せを行い遅れている業務の支援体制を強化します。 時間外勤務が多い職員と面談を行い、時間外勤務する要因を気づかせ、働き方を指導します。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度見込み ・時間外勤務時間数 3,190時間 ○前年度対比 1,298時間増 68.6%増 ※特殊事情による時間外勤務時間数 ・秋田県知事選挙分 341時間 ・大雨災害対応分 268時間 ・市長・市議・衆議院議員選挙分 475時間 ・除雪費(前年度増加分) 315時間 計 1,399時間 	<ul style="list-style-type: none"> 課内担当別年間スケジュール表を作成し、業務進捗状況を毎週開催して係打合せや課長、係長会議でチェックして、遅れている業務に対する支援体制を強化しました。 市民目線からの業務の必要性を課内で検討し、廃止、継続、新規業務の見直しを図りました。 時間外勤務が常態化している職員と面談し、業務の取り組み方や手順などを指導しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、3つの選挙、災害対応、豪雪による除雪作業などの特殊な業務があり、目標を達成することができませんでしたが、特殊業務時間外勤務時間数を除けば前年度時間外勤務時間数を下回り業務改善の効果が図られました。 各業務の年間スケジュール表を作成することで、自分の業務を見直し、課題を見つけ、改善していく習慣づけができました。 業務改善を課内で検討したことによって、協力体制が構築され、組織力アップに繋がりました。 	
重点取組①	大雄地域課	安全で安心な地域環境づくり	B	道路、道路付帯施設や公園施設の適切な維持管理や作業事故の防止に取組みます。	H28年度 ・作業事故件数 2件 ・道路瑕疵件数 0件	年度末	<ul style="list-style-type: none"> 道路パトロール実施 道路、道路付帯施設等に關連する作業事故及び道路瑕疵ゼロ 	<ul style="list-style-type: none"> 道路、公園等のパトロールを毎月2回以上実施し、補修箇所については、迅速に対応します。 地域住民からの要望、苦情等については、現場を確認し関係者と協議の上対応します。 安全運転・作業について、講習会を2回開催します。 	<ul style="list-style-type: none"> 道路、公園等のパトロールを毎月2回実施し、補修箇所を毎月2回実施したほか、文書配達員の協力も得て、補修箇所の早期発見、早期対応に努めました。 道路補修等地域住民からの要望、苦情等に対して迅速に対応しました。 作業前のお互いの注意喚起や指差し確認等を徹底しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 道路、公園等のパトロールを毎月2回、冬期パトロール4回以上実施しました。 文書記録係、大雄地域出身職員の協力も得て、補修箇所の早期発見、早期対応に努めました。 道路補修や地域住民からの要望、苦情等に対して迅速に対応しました。 除雪路線の危険箇所や特に注意すべき箇所を中心に道路状況の確認作業を実施し、支障等がある箇所については即時に改善対応しました。 作業前点検、事故を起こさないようお互いの注意喚起や指差し確認等を徹底しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 道路や道路付帯施設の支障等がある箇所についてはほぼ改善されました。 除雪作業中に作業員の不注意により3件の事故が発生してしまいました。事故発生後、作業員全員で、作業前のお互いの注意喚起や指差し確認、また作業中は緊張感をもって作業するよう話し合いました。 		
重点取組②	大雄地域課	地域活性化につながる夏祭りの実施	A	大雄サマーフェスティバルについて、企画内容等の見直しや魅力発信により入場者の増加を図ります。	H28年度 来場者数 1.5万人	平成29年8月	<ul style="list-style-type: none"> 来場者数を昨年度より5%増加させます。 SNS、TVCM、市報などの媒体を活用し、地域内のみならず、市内外へ広く周知を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> 実行委員会実績検討会を開催し、良かった点、改善すべき点を検証し、来年度の計画に反映します。 	<ul style="list-style-type: none"> 来場者数 1.6万人 (前年度比6.6%増) 	<ul style="list-style-type: none"> 地域活性化のため、地域住民や各種団体と協力し、地域が一体となり盛り上げを創出しました。 SNS、TVCM、市報などの媒体を活用し、地域内のみならず、市内外へ広く周知を行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域を楽しく明るくし、地域の活性化につながることを図りました。 年々来場者も増加していることから、広域的な交流人口増加にも大きな役割を果たしました。 		
重点取組③	大雄地域課	公民館の地区交流センター化に向けた推進	B	地区交流センター設立を目指した取組みを進めます。	平成28年度に大雄地域づくり協議会委員へ事業説明	年度末	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民や各種団体関係者へ説明会を開催し、地区交流センター化の必要性を周知します。 集落座談会や地区会議などへ説明会を開催します。 地区交流センターの理解を深めるために、本格実施している地区を視察します。 地区交流センター事業案について課内で協議します。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域内32会場で開催している集落座談会において、「地区交流センター化」の仕組みや必要性を説明し、住民との意見交換しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民への周知(32会場) H29.8.1～10 集落座談会参加者 241人 地域づくり協議会委員、各種団体役員を対象にした視察、説明会 H29.12.14 視察地：十文字西地区交流センター 20人 H30.1.23 視察地：ほろわ地区交流センター 13人 職員を対象にした勉強会 H30.1.31 地区担当職員 31人 	<ul style="list-style-type: none"> 集落座談会において、「地区交流センター化」の必要性を説明し住民への周知を図りました。 今後、地域運営組織の構成団体と考えている各種団体の役員を対象に先述視察を行っているセンターの仕組みや役割について理解を深めました。 地区交流センター化に向けた職員の勉強会を実施しました。 センター化に向けた年次計画を作成しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明会や先述視察をおし地区交流センターの取り組みについて住民への周知が図られました。 各種団体役員等への説明では年次計画を作成し具体的な目標を示したことと理解を得ることが出来ました。 勉強会とおお、本庁、地域局の職員が今後の地域づくりについて向性を共有するとともに地域に対する意識向上が図られました。 		
重点取組④	大雄地域課	安全で安心な街づくりの推進	A	地域の防災リーダーである消防団員の減少に歯止めをかけ、団員数の増を図ります。	団員数 ・H27.4.1 213人 ・H28.4.1 203人 ・H29.4.1 194人	年度末	<ul style="list-style-type: none"> 団員数 ・H30.3.31 210人 	<ul style="list-style-type: none"> 消防団と連携し次の取組を行います。 新たに「入団促進月間」を定め、積極的に戸別訪問を行い入団促進を図ります。 機能別消防団員の導入を幹部会議(3回/年)で検討します。 女性消防団員の入団促進を行います。 各種イベントの際に消防団のPR活動を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> 11月を「入団促進月間」と定め、団員による戸別訪問を行い入団促進を図ります。 また、現役の女性消防団員を通じて、女性消防団員の勧誘を行います。 機能別消防団員の導入等について幹部会議(11・12・3)で協議します。 引き続き、各種イベントの際に消防団のPR活動を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> 団員数 ・H30.3.1 185人 ※目標値比較▲25人 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツレクリエーションで消防団のPRを行ったほか、「消防団だより(10月、2月発行)」に団員の募集について掲載するなど、入団促進を図りました。 11月を「入団促進月間」と定め、入団促進を行ったところ、1名の入団がありました。 機能別消防団員の導入について幹部会議(2回)の検討を行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> 若者のサラリーマン化や地域貢献に対する感心の低下、団員の高齢化等により団員の減少に歯止めがからない状況にあります。 再度、現状分析を行ったうえで取組の見直しを行います。 	

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況[Output・input]		成果分析[Outcome]	
				目標指標の内容	目標の基準値	目標達成時期	目標値	目標達成のための具体的方法	【現 状】	【ギャップと対策】	①達成値・実績値	②取組・行動内容	③目標達成による効果
				(何を)	(目標設定時の状態・比較実績)	(いつまでに)	(どの水準までとする・達成後の状態)	(具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)	(目標の達成状況・ 現在の状態)	(目標達成のために 行った取組・行動)	(目標達成による効果、 目標達成できなかった事由)
重点 取組 ⑤	大雄 地域 課	地域住民との対話による住みよい地域づくり	A	集落座談会の出席者数の増加を図り、広く地域要望や意見を聞きながら、住みよい地域づくりを推進します。	H28年度 ・集落座談会会場 32会場 ・集落座談会出席者数 247人	年度末	・集落座談会会場 32会場 ・集落座談会出席者数 300人以上 ・意見交換会等(若年層・女性層) 1回/年	・集落座談会から出された簡易な要望には迅速に対応します。多額な予算を伴う要望は、できるだけ平成30年度予算に反映します。 ・地域の課題等については、地域住民と行政が協力・協調し取組みます。 ・市政に対しての多様な意見を伺うため、若年層や女性層を対象とした意見交換会等を開催します。	8/1から8/10まで集落座談会を開催しました。 ・集落座談会開催会場数 32会場 ・集落座談会出席者数 241人 ・要望意見等数 276件	・11月に要望事項等への対応状況について確認を行い、未実施のものについては平成30年度予算への予算措置等を検討します。 ・また、年内に要望事項等ごとに一定の結論を出し、「地域づくりだより」に掲載します。 ・次代を担う方々による「大雄地域を活性化するには(仮)」をテーマとしたグループワークを開催します。	・集落座談会(8/1～8/10)会場数 :32会場 出席者数 :241人 ※目標値比較▲59人 要望意見等数:276件 ・地域づくりワークショップ(3/24)参加者数 :30人	・軽微な要望事項については、12月までに全て実施しました。なお、実施できなかった要望については、実施の可否について関係部署等と協議したうえで、平成30年度予算に反映しました。 ・実施状況については、各集落代表へ文書で報告したほか「地域づくりだより」に掲載し広く周知を行いました。 ・新たな試みとして、次代を担う方々による「地域づくりワークショップ」を開催しました。	・地域の方々との活発な意見交換により出された要望については、迅速に対応するとともに、実施状況を適宜報告することにより、住民参加型の地域づくりを行うことができました。 ・集落座談会への出席者が固定化している傾向にあることから、テーマや年代、性別等を絞った形での開催を検討します。 ・若年層の方々に「地域づくり」について、興味や関心を持ってもらうことができました。
重点 取組 ⑥	大雄 地域 課	地域の拠点施設「ゆとりおん大雄」の運営	A	温泉経営の安定化を図るため、売上増及び経費の節減に取り組みます。	H28年度実績 ・営業収入(売上) 79,761千円 ・営業費用(人件費、工事費除いた経費) 57,917千円	年度末	・営業収入(売上) 84,000千円(前年度対比5%増) ・営業費用(人件費、工事費を除いた経費) 59,700千円(予算対比3%減)	・営業収入(売上)4月～9月 36,391千円(前年度対比84.2%) ・営業費用4月～9月 25,448千円(予算対比82.7%) ・温泉のイベントについて市のホームページやかまくらFMを通して周知しました。 ・新たに横手駅や観光施設にイベントチラシやパンフレットを設置しゆとりおんのPRに努めました。 ・新たに来店農家を募集し農産品の拡充を図りました。 ・関係機関と連携し、スポーツ団体の宿泊の利用促進を図りました。 ・宴会や法要など顧客ニーズに沿った料理の提供に努めました。 ・サマーフェスティバルや実験農場フィールドデーに参画しながらPRを図りました。	・売上について、料飲部門が落ち込んでいるため、関係機関と連携し、日帰り入浴や団体宿泊の利用促進を図ります。 12月 お客様感謝祭 1月 新春の集い 2月 カラオケ決勝大会 イベント企画を行い誘客を図ります。	・営業収入(売上)4月～2月 60,918千円(前年度対比81.3%) ・営業費用4月～1月 42,262千円(予算対比82.4%)	・(随時)温泉のイベントについて市のホームページやかまくらFMを通して周知しました。 ・(随時)新たに横手駅や観光施設にイベントチラシやパンフレットを設置しゆとりおんのPRに努めました。 ・(随時)新たに来店農家を募集し農産品の拡充を図りました。 ・(随時)関係機関と連携し、スポーツ団体の宿泊の利用促進を図りました。 ・(随時)宴会や法要など顧客ニーズに沿った料理の提供に努めました。 ・イベント関係 6/24 さなぶり祭り 7/29 サマーフェスティバル 8/3 実験農場フィールドデー 11/10 キリンビール初飲み会 11/25大雄イルミネーション 12/10 お客様感謝祭 1/20 新春の集い 2/25 カラオケ決勝大会	・営業収入は温泉部門では前年度並、料飲部門については、法要関係が大きく落ち込み前年度対比81.3%となりました。次年度以降は、宿泊については、閑散期に2泊以上の宿泊に力を入れ、宴会等の料理についても、四季に沿った料理の工夫を図ります。 ・営業費用は、賄材料における原価率は50%超と高い傾向にありますが、需用費について経費節減に努めた結果、現在のところ目標を上回っている状況。賄材料について、引き続き仕入れ食材の見直し卓料理の量を減らすなど原価率の抑制を図ります。	

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況(Output・input)		成果分析[Outcome]	
				目標指標の内容	目標の基準値	目標達成時期	目標値	目標達成のための具体的方法	【現 状】	【ギャップと対策】	①達成値・実績値	②取組・行動内容	③目標達成による成果
				(何を)	(目標設定時の状態・比較実績)	(いつまで(に))	(どの水準までどうする・達成後の状態)	(具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)	(目標の達成状況・ 現在の状態)	(目標達成のために 行った取組・行動)	(目標の達成による効果、 目標達成できなかった事由)
業務改善取組①	大雄市民サービス課	市民から頼まれ、信頼される窓口業務の確立	B	市民サービス課の業務全般	年度末	多様化する業務に伴い、市民が求めるサービスも多岐にわたっています。限られた職員数で、効率よく、迅速に、適切なサービスを提供する必要があります。	<ul style="list-style-type: none"> お客様の声を良く聞き、迅速で確かな対応と、ニーズに合ったサービスの提供をします。 課内全員が、課内業務の基本的な受付や申請等ができるようになります。 	<ul style="list-style-type: none"> お客様へ積極的に声かけし、明るいあいさつと丁寧な対応をします。 課内ミーティングを定期的に開催し、業務の進捗状況等について情報共有を徹底します。 課内業務における基本的な申請受付等について、勉強会を実施します。 一人一研修を目標とし、自己研鑽を図り個々の資質向上に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 来客者へは明るい笑顔で積極的に声掛けし、丁寧な対応をしています。 課内ミーティングを定期的に行い、課内の業務の進捗状況について情報共有を図り、係を超えた協力を行っています。 保健福祉関係業務の申請方法等について、課内勉強会を行い全職員が基本的な申請受付ができるようになっています。 自治研修以外にも業務に関係する分野や興味のある分野の研修に積極的に参加しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 来客者へは積極的に声掛けをし、明るく親切で丁寧な対応をしました。 職員が自分の担当以外の業務にも積極的に対応し、係を超えた協力体制を築きました。 職員がそれぞれ自分の能力向上に向けて研修等に参加し、その成果をそれぞれの業務に活かし、より充実した窓口対応に努めました。 	<ul style="list-style-type: none"> お客様に積極的に声掛けをし、迅速で丁寧な対応を行いました。 毎週、課内打合せを行い、それぞれの業務進捗状況について情報共有を図りました。 窓口業務について勉強会を行い、担当以外の業務も基本的な受付申請等ができるようになりました。 職員それぞれが研修等に参加し自己研鑽を図り、その成果を活かし業務遂行の向上につなげました。 本庁、関係機関と協力し迅速な対応を行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民が一番身近な窓口として、市民が安心して相談できる環境を整え、迅速で的確な対応に努め信頼されるサービスの提供ができました。 職員個々が自己研鑽に努め資質向上を図り、より適切で充実した窓口対応ができました。 	
重点取組①	大雄市民サービス課	大雄地域の自殺者数を減らす	A	自殺者数の減少	年度末	大雄地域の自殺者数 H24:1人(50代男) H25:2人(80代男 50代女) H28:3人(30代・50代男 80代女) H27:2人(30代・80代男) H28:5人(50代男2人・70代男2人 80代女)	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民が大雄地域の自殺の現状(特性)を知り、地域での自殺予防(自分達にできること)を考慮することができるよう支援します。 ゲートキーパー養成講座の開催 3地域 	<ul style="list-style-type: none"> 総合健診受診者720人に対してパンフレットを配布し、横手市の自殺の現状といのちを守るための取組等について周知しました。 集落座談会(32か所)の場で大雄の自殺の現状を説明し、11月に開催する心の健康づくり講演会についてPRを行いました。 地域でのゲートキーパー養成講座開催に向けて、関係者と協議しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 心の健康づくり講演会の開催 11月22日(水)13:30～ チラシ配布や各団体への呼びかけを行い、多くの方々に参加してもらえよう開催を図ります。 12月から開催予定のゲートキーパー養成講座に向け、地域の代表を含む関係者で話し合いを行っています。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合健診受診者へのパンフレットの配布と集落座談会を利用して、横手市の自殺の現状と取組について説明しました。 H29.11.22(水)「心の健康づくり講演会」開催 参加者90人 H29.12.21(木)乗阿気集落「ゲートキーパー養成講座」開催 参加者20人 H30.2.21(水)こころあつたかコンサート開催 参加者100人 	<ul style="list-style-type: none"> 横手市と大雄地域の自殺の現状と特徴について周知を図り、住民が自殺予防にできることを考えてもらうきっかけを提供しました。 集落単位でのゲートキーパー養成講座を開催することで、自殺予防についての取り組みについて改めて考えてもらい、集落全体での取り組みにつながるよう努めました。 		
重点取組②	大雄市民サービス課	生活習慣病予防活動の推進	B	若年～中高年期の生活習慣病予防に対する意識向上	年度末	H28年度 ①個別健康相談 ・住民健診時の個別相談:737人 ・巡回個別相談:55人 ・健診結果要指導者個別指導:47人 ②小学校等における健康教室 ・生活習慣病予防教室1回/55人 ・防煙教室1回/30人 ・虫歯(歯周病)教室5回/226人	<ul style="list-style-type: none"> 若年～働き盛り世代へのアプローチを強化し、早期からの生活習慣病予防と重症化予防の推進を支援します。 住民健診時の個別相談 H28年度実施率90%⇒92% H28年度での健康教室の開催 2回 	<ul style="list-style-type: none"> いいききサロン等で健康教育を実施しました。 12回/193人 大雄小学校4年生(29名)を対象とした生活習慣病予防講話を実施しました。 大雄小学校全学年児童、たいゆう保育園年少～年長児を対象とした歯科教室と歯周病予防教室を実施しました。 住民健診受診者781人中720人に個別健康相談を実施しました。 地域で健康相談を実施しました。 14回/228人(内、認知症予防タッチパネル3回/47人) 特定保健指導対象者48人中40人に初回面談を実施し、面談ができなかった人へは、電話や文書で結果説明と指導を行いました。 4か月児健診、赤ちゃん訪問時、母親への保健指導を実施しました。 17人 	<ul style="list-style-type: none"> ①健康教育・健康相談の充実 いいききサロン等への介入を継続し、適切な指導を実施します。 大雄小学校6年生を対象とした防煙教室と歯周病予防教室の実施 2働き盛り年代へのアプローチの強化 健診の結果から精密検査未受診者へ受診勧奨を実施します。特に特定健診の精密検査未受診者40才～64才までに対して働きかけを強化します。 婦人科検診未受診者へのコールコールを実施します。 ③特定保健指導の継続 	<ul style="list-style-type: none"> いいききサロン等での健康教育の実施 654人/42回 大雄小学校4年生を対象とした生活習慣病予防講話の実施 29人/1回 大雄小学校6年生を対象とした防煙講話の実施 46人/2回 大雄小学校全学年児童、たいゆう保育園年少～年長児を対象とした歯周病予防教室の実施 273人/8回 住民健診受診者781人中720人に個別健康相談を実施 地域での健康相談の実施 661人/46回(内、認知症予防タッチパネル167人/10回) 特定健診の結果、40～64歳の要精検の未受診者を対象に通知での受診勧奨43人 健診の結果、要精検の未受診者を対象に通知での再勧奨55人。その後電話での再勧奨14人 婦人科検診未受診者コールコールの実施9人 特定保健指導6ヶ月後の評価実施者34人 4か月児健診、赤ちゃん訪問時の母親等への保健指導の実施36人 	<ul style="list-style-type: none"> 地域での健康教育・健康相談の実施に関しては、内容の周知やチラシ配布、参加呼びかけ、金館借用など地域の代表者と連携し協力を得ながら実施したことで、住民参加型の健康づくりの取組みにつながるよう努めました。 保育園、学校での健康教室を実施する際には、関係者と十分に打合せを行い、年齢に応じた広がりやすい内容となるよう配慮しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康教育、健康相談を地域に出向いて実施したことで、地域全体の健康づくりにつながりました。また、下半期(降雪時期)に多く実施したことで、高齢者の閉じこもり予防を促した。党機関の健康管理に役立ててもらえました。 健診の結果から、働き盛りの年代へのアプローチを強化したことで、精密検査受診の重要性を理解してもらい重症化予防に結びつけることができました。 保育園児や小学校児童を対象に健康教室を実施したことで「自分の健康は自分で守る」ことの意識が高まり、早期から生活習慣病予防について考え、そのための行動がとれるように知識の普及ができました。 	
重点取組③	大雄市民サービス課	公立保育所整備・民営化計画に基づいたたいゆう保育園民営化に向けた円滑な事業推進	A	たいゆう保育園整備・民営化の推進	年度末	平成32年度の民設での事業開始に向けて、今年度中に用地選定と民営化先法人の決定をします。	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援課と連携し、保護者や住民、関係機関等への説明や報告を適宜行い、スムーズな用地選定と法人決定に取り組めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートを実施しました。 保護者への説明会を開催しました。 職員説明会を開催しました。 10/10～12/8まで法人公募 	<ul style="list-style-type: none"> 1月下旬:民営化法人決定予定 2月上旬:用地決定予定 引き続き、子育て支援課と協力し、保護者や住民等への説明及び報告を行い、円滑な事業実施に取り組めます。 職員の不安を取り除くよう、進捗状況の報告を行い情報共有に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> H29.6保護者アンケート実施(候補地について) H29.8.29保護者説明会開催(18人参加) H29.9.6保育園職員との意見交換会 H29.10.10公募開始 H29.10保育所非公募職員意向調査 H29.11.20大雄地域づくり協議会説明 H29.12.18第1回候補者選定委員会 H30.2.5第2回候補者選定委員会 H30.2.19政策会議にて法人決定 	<ul style="list-style-type: none"> 法人決定を受けて、今後は保護者及び職員への説明会を随時開催し、スムーズな民営化につなげていきます。 民営化先法人と保育内容や保育士加遇面についての調整を行い、併せて意見交換会等を開催するなどして、引き続き職員の不安解消に努めます。 		

■平成29年度

まちづくり推進部 大雄市民サービス課

組織目標管理シート

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容			目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況(output・input)		成果分析[outcome]		
				目標指標の内容	目標の基準値	目標達成時期	目標値	目標達成のための具体的方法	【現 状】	【ギャップと対策】	①達成値・実績値	②取組・行動内容	③目標達成による成果
				(何を)	(目標設定時の状態・比較実績)	(いつまでに)	(どの水準までどうする・達成後の状態)	(具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)	(現在の達成状況・ 現在の状態)	(目標達成のために 行った取組・行動)	(目標の達成による効果、 目標達成できなかった事由)
重点 取組 ④	大雄 市民 サー ビス 課	安心安全で地域に信頼される保 育園運営	B	・保育の専門性 ・子どもの安全な保育	年度末	・保育士一人ひとりの能力を十分 に発揮し、保育の専門性を高め、 保護者や地域に信頼される保 育園を目指します。 ・危機管理対策を徹底させ、より 安全で安心な保育を提供しま す。	①一人一研修の実施 ②専門員による園内研修実施 ③危機管理対策の徹底 ・ヒヤリハットの活用と防犯対策の 技術習得 ・警察官による護身術マスター ④大雄小学校との円滑な連携 ・保育参観や学校行事への参加 ⑤地域住民との交流の場の構築 ⑥各種行事(サマフェスタ・敬老会・ス ポーツ大会等)への参加 ・地域婦人会との花植え作業 ・民生児童委員との農園作業	①一人1～2回以上研修に参加しま した。 ②南教育事務所幼保推進班による 園内研修を実施しました。 ③横手警察署による防犯教室と職 員向け防犯講習、横手消防本部に よる救命講習を受講(全職員)しま した。 ④大雄小学校との連絡協議会を開 催(8・9・10月)しました。 ・小学校教諭1日保育体験事業・保 育士1日学校体験事業を実施しま した。 ⑤各種行事へ参加しました。 ・サマーフェスティバル 3歳以上 児参加 ・敬老会 年中児・年長児参加 ・スポーツレクリエーション 3歳以 上児参加 ・田村婦人会との花植え作業 年 中児参加 ・民生児童委員との農園作業 3 歳以上児参加	・新保育指針が改訂になる来年度 に向けて、研修で学んだことを基 に、保育のあり方について話し合 いをもち、専門性を高めていきま す。 ・ヒヤリハットの振り返りをし、未 然に防止できる項目について情報共 有を図りながら危険防止を徹底さ せ、より安全で安心な保育の提供に 努めます。	・一人2回以上研修会の参加 ・6/26横手支援学校の専門監の来 園 ・7/20南教育事務所指導主事と幼 保指導員による各クラス保育参観 実施(1日) ・6/7/16/14/横手警察署による全 職員への護身術習得講習(2回編 成) ・6/13・6/20横手消防署による全職 員対象のAED講習実施 ・12/14危機管理対策(全園児・全保 護者対象)引き渡し訓練実施 ・保小連絡会開催(5月～2月)6回実 施 ・6/16小学校一日保育体験事業 ・8/2 一日保育体験事業 ・各種地域行事に参加 ・7/29大雄サマーフェスティバル (年少組以上98%参加) ・9/15大雄地区 敬老会(年中・年 長組全員参加) ・10/7スポーツレクリエーション(年 少組以上78%参加) ・6/19 田村婦人会との花植え作業 ・5/12 民生委員さんとじゃがいも植 え	・保育士の資質向上の取得のために、 様々な研修に向いて園内のみなら ず、園外研修にも職員が2回以上参加 することが出来ました。 ・専門分野の講師を派遣して、保育の 分野だけでなく、安全面や危機管理面 でも職員全員が講習を受講して、マ スターする事ができました。 ・年長児の就学に向けて、小学校との 連絡を密にし回数をもつ事により、 子どもたちの入学への不安解消を図 りました。 ・地域や施設との交流を持ち地域交流 に努める事ができ、より交流の場 の構築を図ることができました。市民の方 々と、作業活動や行事を通してより新 密度がアップし、笑顔で接する機会が 多くなりました。	・安全教育の充実と安全管理の強化に結 びつきました。 ・保護者にも協力してもらい、メール配 信の確認と迅速な緊急時の対応の連携 の充実を図る事ができました。 ・平成30年度からの新保育指針改定にあ たり、職員全員が研修を積むことで不安を 抱くことなく、スタートする力を身に付け る事ができました。 ・年長児の小学校入学に向けて、小学校 と円滑な連携を図ることができ、子供たち が安心して小学校生活に踏み出すことが できるようになりました。 ・市民の方との協働作業や行事での触れ 合いを体験し、思いやりの心や、相手に 対する接し方を学ぶ事ができました。	